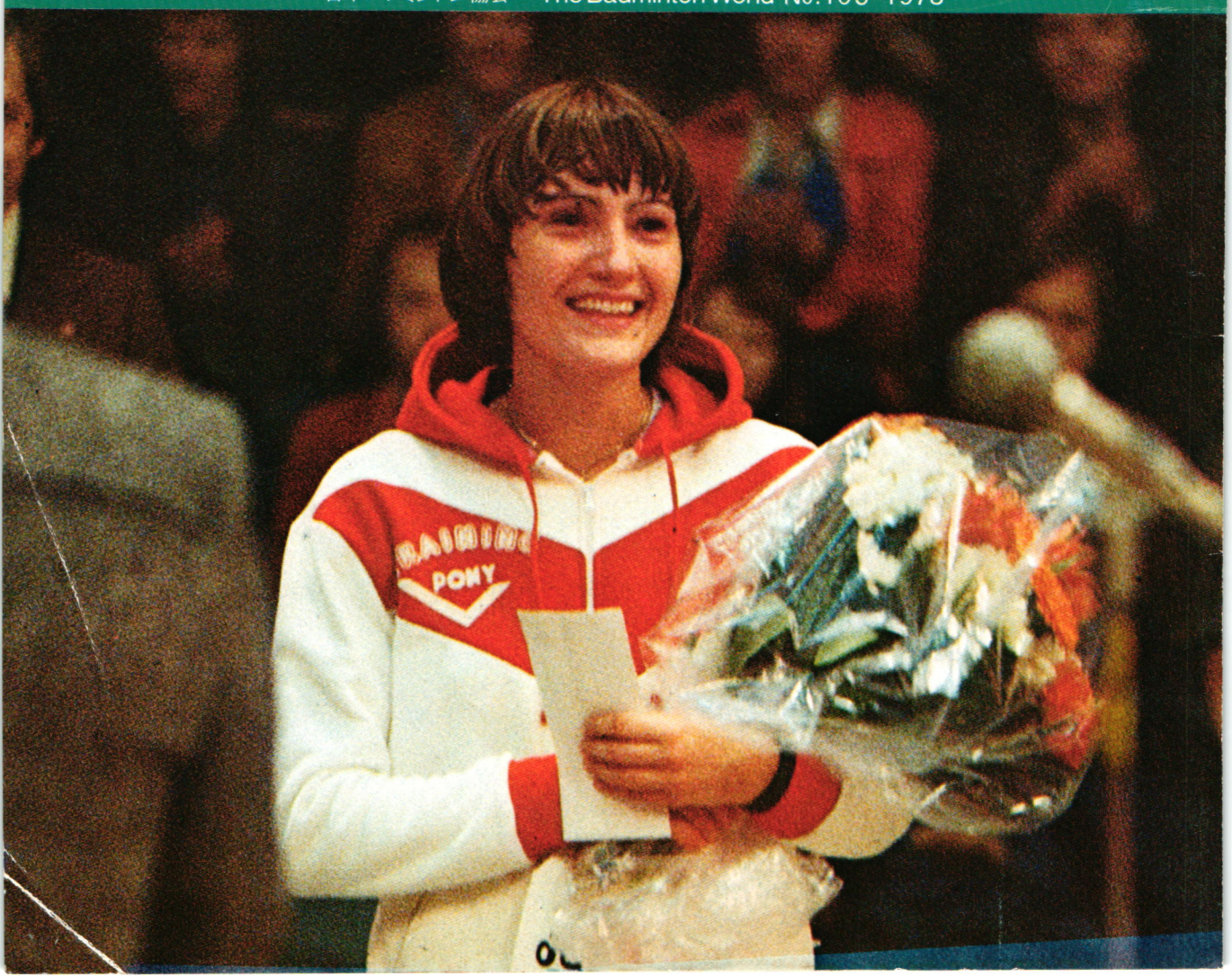
昭和44年12月23日第3種郵便物認可　昭和53年7月15日発行（毎月1回15日発行通巻第105号）

バドミントン

日本バドミントン協会　The Badminton World No.105　1978

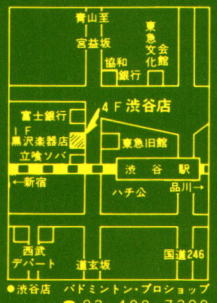


ラケットおニュー!!
意欲も新品。

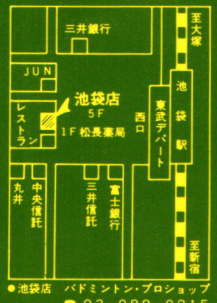


●年中無休
●営業時間　渋谷・池袋店
AM10：00〜PM７：00
横浜店
AM10：00〜PM８：00

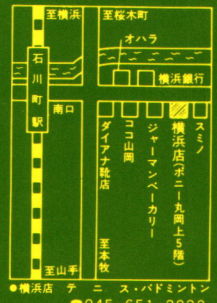
ラケットショップ元町



●渋谷店　バドミントン・プロショップ
☎ 03-400-7390



●池袋店　バドミントン・プロショップ
☎ 03-988-0215



●横浜店　テニス・バドミントン
☎045-651-2020

バドミントン7

❷
私とバドミントン1／瀬戸裕美子
がんばらなくっちゃ!!

❹
私とバドミントン2／松岡信
薄情な父……でも

❻
私とバドミントン3／岡本咲子
主人と子供に感謝

❼
私とバドミントン4／福田廣美
ハリと潤いが出る

❿
われらのクラブ
菊本バドミントン同好会

⓫
高田正純・連載
「寅さん」をまとめれば

⓬
全日本実業団・男子団体
電電東京が5度目

⓭
全日本実業団・女子団体
サントリー3年連続

⓮
土田、苦闘の初栄冠
近藤、初陣を飾る

㉖
栂野尾組堂々の4連覇
徳田組、自信の完勝

㉘
混合複
日下組、磐石の守り

㉙
寺田太郎・連載
ハムレット

㉜
インターハイ出場校・選手名
会津若松の夏を制するものは!?

㉟
海外トピックス
爆発したTNT

㊳
ヨーロッパ情報
ハッシュマン夫人解任

㊴
読者と編集者
協会からのお知らせ

◇表紙デザイン・構成、本文カット＝野間デザイン室／表紙・本文写真＝赤間三樹（使用カメラ・レンズ＝アサヒペンタックスMX、K2　SMC−P−M　50/1.4　SMC−P　200/2.5　300/4）／現像処理＝㈱クリエイトフォト・タカ◇今月の表紙＝1978年デンマーク・オープンに優勝のリーン・コーペン選手（デンマーク）

がんばらなくっちゃ!!

東京都武蔵野市
中学3年
瀬戸 裕美子

私がバドミントンをやり始めてから、もう2年になろうとしています。いろいろなことがあったな……と、今、なつかしく思い出されてきます。

あれは中学に入ってまもなく、私はかねてから心にきめていた演劇部に入部を希望していました。ところがこれが、私の意志の弱さか、友の強引さか、クラブ決定時となってバドミントン部へと変更したのです。今思えば不思議でなりません。あの時、友人が私に声をかけなければ、間違いなく私は演劇部にはいっていたでしょう。今となっては、その時声をかけてくれた友人に対して、感謝の気持ちでいっぱいです。私は部に入ることによってバドミントンのすばらしさを知り、また下手なりに接することができたのですから。

私が初めて自分の所有としたラケットは、5000円以上もする〝高級品〟これからバドミントンをやろう……などという私には、ほんの少し、贅沢なラケットでした。私はラケット1本を買うために、いくつもの店をまわり、いくつものラケットを見ました。見る…といっても、何もわからない私です。ただたくさんのラケットを見て、ついに自分のラケットが決まった時は、もう、うれしくて、思わず、大声で叫びたくなりました。「こんにちわ、わたしのラケットさん。どうぞよろしくね」

部に入ったら、すぐバドミントンができると思ったのは大きな間違いでした。先輩たちにしごかれ、マラソン、柔軟体操……さらにはクラブ外の早朝練習。私のラケットは、シャトルに一度も触れることなく、私のことを待っていました。そして、初めてラケットを使った日、これは、誰のラケットでもない自分だけのものなんだ……と思うと、私は、とてもうれしくなりました。にぎってはなし、ガットに触れてみたり、フレームをなでてみたり、あるいは、素振りをひとつ。ついには、自分のそばから、ほんの少しの間でもラケットをはなすのがイヤになったりしました。そんな私を興奮させたラケットでした。

しかし、そんな私の心に反して、このラケットが使えなくなるのに、たいして日はかかりませんでした。そうです、私はほんの不注意から、ラケットを折ってしまったのです。倒れた自転車の下じきになったラケットは、もう見るも無惨な姿でした。私はその日、ラケットを見れば涙をこぼしました。何度もラケットにむかってあやまりました。ごめんなさい——と。私があまり悲しんだので、次の日に両親が同じラケットを私に買ってくれたのです。私は、私のためにこわれてしまったこの可哀そうなラケットの分も、新しいラケットを大切にしようと思いました。

わたしにとって、最初の試合は、1年生の7月でした。団体戦のダブルスでした。点差は、はっきり覚えていませんが、1、2点しかとれなかったように思います。初めての試合であり、初めての敗戦でした。いくら相手が3年生とはいえ、あまりにひどい結果でした。私は、試合に出るというので、シューズや、スコート、ウェアをひととおりそろえたりしました。しかしあっさり負けて、ただかっこうだけをつけて、実力がまるでない自分を、とてもはずかしく思いました。

私は、学校の部といっしょに、市内のバドミントンセンターにも、必死に通いました。ここは、A・B・Cの実力段階に分けられていました。私はこのBグループの常連でした。

私とバドミントン

早くAに上がりたい……と努力し、上がったと思えば、すぐ下げられるといったくりかえしでした。私は、何度もくやしい思いをして、奮起し、今日こそは、完全にAグループの一員になろうと思うのですが、いつも、だめでした。——こんなに努力しているのに——、私はいつも自分で自分をかばってしまっていたのです。私がAに行けないのは、先生が私を嫌いなせいだ、とまで思ったりしました。でも、今は私が下手だったせいだと、はっきり思うことができます。——私、信じているんです。人間、自分の弱さを知った時、初めて〝せいいっぱいの努力〟ができると。有頂天になってしまったら、進歩はないのです。

私が日本、あるいは世界のバドミントン界の第一線を行く日本選手のナマの試合を見たのは、一昨年の12月12日が初めてでした。あまりのすごさに思わず感激。いつか自分もこの人たちのようになろう！、などという大それたことまで考えたりしました。あれはとれないだろうと思ったシャトルを、選手の人たちは、あきらめずトライし、リターン。すぐあきらめてしまう私とは大違い。私はせめて、この人たちのようにいっしょうけんめいプレイしよう——そう思いました。

私も2年生になりました。1年生の時とはほんの少し違います。頼りにしていた3年生が卒業。私達はもう、甘えんぼの1年生でいてはいけないのです。クラブの中堅として、しっかりしなければいけません。

2年生になって、初めての試合は、市内の中学2年生、女子ダブルスでした。この試合はとても思い出深いものでした。試合は午後からなので、母がおべんとうを持たせてくれました。お昼になって、おべんとうを開いてみると、母からの手紙がはいっていたのです。中には、はげましの言葉や注意、最後には、

「裕美子ちゃん、がんばってね。お母さんも心の中で応援していますよ」

などの言葉が書かれていました。友達に、

「いいお母さんね」

といわれて、思わず泣きだしてしまった私。がんばるぞ、負けるものか！……結果は3位。ほんの数回勝てば、3位になれるけれど初めての上位入賞。賞状をもらう時は思わず胸がドキドキ……。後日、改めて学校で校長先生から賞状をいただきました。全校生徒の拍手をもらい、自分がちょっぴり偉くなったようなそんな気がしました。そして、今度試合する時は、もっとがんばろうと思いました。

昭和52年度の我らバドミントン部。反省すべき点が多くありました。なんといっても、まとまりがなかったのです。来年度は、私達3年生が主体として部をまとめていかなければいけないのです。がんばらなくっちゃ！……って今からはりきっています。受験という障害もありますが、そんなものに負けて、バドミントンをやめるなどということは、今の私には考えられないことです。

こうして、2年間をふりかえってみると、ほんとうにいろいろなことがありました。思い出せばきりがありません。私といえばいつも結果は「……と思いました」ばかり。でも、そんなことのくりかえしが、私をつくっていくんですね。私はどんなに大きくなっても、バドミントンを続けていきたいと思います。いつまでも下手かもしれません。でも、下手なりに、努力し下手なりに楽しんでいきたいと思ってます。そして、私が少しずつ歩んできた道をふりかえり、反省しながら、進んでいきたいと思うのです。こんな時、高村光太郎のあの「道程」の一節が思い出されます。

僕の前に道はない
僕の後に道はできる
……この遠い道程の為
この遠い道程の為

私のこれからの人生も、バドミントンを続けていくことも、ある意味では同じです。後には、自分の切り開いた道があります。後にもどるのは簡単ですが、前方は未開の地。切り開くのは大変なことです。でも私達は、努力し、時には悩み、苦しみながら、限りないゴールへと、前進し続けるのです。

私にとってバドミントンは、もう切っても切れない存在です。これからも、やはりどんなことがあっても続けます。何度でもいいます。どんなことがあっても続けます。私は、バドミントンが大好きだから。

薄情な父……でも

三重県伊勢市
市役所勤務・28歳
松岡　信

バドミントンとは、狭いコートの中で羽根を打ち合うだけの易しいゲームで、女子や子供にとっては適度の運動となるが男子にとっては大した運動にならない――。

こう考えていた男が、いつの間にかバドミントンのとりこになった。腕前こそ三流どころだが、熱狂度は超一流を自認している。週に三度はシャトルを打たないと気持ちが治まらない。

バドミントンを知ったのは大学一年の秋である。体育の授業で、各種競技の中から一種目を選択することになったとき、バドミントンを選んだのがそもそもの始まりだ。勿論、当時はこの「西洋羽根つき」には何の興味もなく、ただスポーツとは呼び得ないような簡単なゲームで単位がもらえるならば、というだけのことであった。

ところがまず最初の授業において、この無精な考えはみごとに吹き飛ばされてしまった。先生と部員による模範試合は、単なる「羽根つき」ではなかったのである。何と、シャトルを打つと音がする。これには驚いた。また、さまざまなストローク――微妙な放物線を描くハイクリアー、猛スピードのスマッシュ、丁寧にコントロールされるドロップやヘアピンショット。加えて実に華麗なフットワークが生み出す合理的な動き。私はこの全てのものに、たちまち魅せられてしまったのである。おそらく他の学生連中も同じような思いであったろう。多くの眼はシャトルとプレーヤーに釘づけになり、シャトルの快い打球音だけが体育館にこだましていた。

授業も決してありきたりのものではなかった。学校の運動クラブを思わせる腹筋、背筋運動に多くの時間が費された。私は悲鳴をあげつつも、身体がよみがえる思いを喜んだものだ。苦痛を快いと感じるこの日々があったればこそ、今日の健康な日々があるのだと思う。

授業は半年で終了し、当然単位も取れた。しかし、私はそののちも卒業するまでバドミントンの授業に出席していた。

昭和47年4月、三重県伊勢市役所に就職。同時にバドミントン部に入部。が、それだけでは飽き足らない私は、市内の社会人が寄り集まって練習できる場を作ってみようと考えた。とはいうものの、伊勢市は就職して初めて来た町であり、仲間を見つけるのも難しく、初めは市役所の部員が中心となった僅か数人での出発であった。それでも半年ばかり続けていると鼻の利く連中が集まって来るようにはなったが、その数は三、四人を越えることはなかった。せっかく立派な県営体育館を定期的に借りておきながら、何とも寂しいことである。また、日によっては練習時間の半分を過ぎても誰も集まらないため、ひとりで練習のマネごとをして過ごすこともあった。各筋肉の強化運動、フットワーク、サーブ練習など全て単調で面白くないものばかりだ。ただゲームを想定してのフットワークだけは、必ず相手に打ち勝てるから愉快だ。こんなチャンスには火の出るようなスマッシュを打ち込み、こんな苦境にはこう打って次にはこう打ち返し、などと都合のいいことばかり考えながらコートを走り回っていたものだ。それに、いわゆるハイバックが苦手だった私は、頭上にシャトルを打ち上げておいて、それをバッ

私とバドミントン

クで打ってみるという作業を随分繰り返してみた。練習相手があれば連続してハイクリアーを打ってもらえば済むところを、ひとりで行なうのだから手間がかかる。第一、ネットの向こうに飛んだ羽根を拾いに行かなければならない。が、こんな練習でも行なわないよりはマシだ——などと殊勝なことを考える訳はなく、その時はただ誰も集って来ないことにイライラしながら続けていただけのことだが。

ところがこの閑散とした練習風景も、1年後にはガラリと様子が変わった。翌48年4月、市役所へ就職した人達の中にバドミントン経験者が3人もいて、3人とも快く入部してくれたからである。しかも彼らは学生時代のバド仲間を随分たくさん紹介してくれて、お陰で3面のコートはフルに活用されるようになった。館内には歓声、奇声があふれて、かつてのあの寂しさは夢だったのかと思われるほどになった。

練習会が軌道に乗ってから5年が経った。この年月の間、メンバーは絶えず流動的であった。また組織自体も、参加者過多の状態が続いたかと思うと突然練習会離れの現象が現れたりして、実に不安定なものであった。が、それにもかかわらず今日まで何とか生き長らえて来たのは、一日合宿、大会参加の一括申し込みなどの活動が効を奏しているからではないだろうか。

一日合宿とはその名のとおり、休日に体育館を借り切って朝から晩までトレーニングに励むことである。普段の練習会において参加者が過多状態のときには、一日中バドミントンができる満足感が得られるし、逆に練習会離れの現象が出始めた頃には、合宿参加者がより強い連帯意識で結ばれる。個々のプレーの上達もさることながら、こうした目に見えない面に大きい効果がある。

せっかく練習を重ねているなら試合に出て力を試してみるのがいいと思う。幸い当練習会の仲間は積極人間ばかりで、大会ごとに多勢の参加申し込みを一括して行なっている。お前の腕前なら二回戦まで行けるとか行けないとか、互いに口悪く評価し合うのも楽しいし、当日は弁当を持ち寄って遠足気分で試合会場まで行くのもまた楽しい。

我々の練習会には名前が付けられていない。何の拘束もなく、シャトルを打ちたい者が自由に出入りできる会だから、特別の名前は付けなくていいと皆んなが思っている。ただときどきは、自分達の気持ちと会そのものを引き締める意味で一日合宿などをする。

私は、これこそ地域の社会人の会としてはベストの状態だと確信する。

練習会により伊勢市役所チームとしての力も向上しつつあるところへ、昭和51年春、その力を試す機会が与えられた。それまでは少数チームだけで運営されてきた県実業団連盟が自らの構造改革に踏み切り、県下の事業所チームに対し連盟への加入勧誘がなされたのである。その結果、男子は31チーム、女子は13チームが加盟する大所帯の連盟ができ上がり、春秋には大規模なリーグ戦（男子は5部に、女子は2部に分割）が繰り広げられることになった。また、男子のチーム数はその後も増える一方で、今年度前期大会では45チームの参加が予定されている。この中にあって我が伊勢市役所チームは、当初最下部リーグからスタートしたが毎大会に好成績を収め、現在は2部リーグの中ごろに位置している。もっともチーム内にあって私は、ポイントゲッターとしては余り活躍がなく、どちらかと言えば、相手チームの力量を測ったり、オーダーを予想したりの作戦面において活躍させてもらっている程度なのだが。それでもチームが勝てばうれしいのは当り前で、うれしいからより一層バドミントンが好きになる。

我家にはこの春三歳になった子供がいる。彼が生まれたときにも私は、バドミントンでひと汗かいてから父子の対面に参じたほどだ。果たしてその時彼は私のことをどんな父親と思ったろうか。「薄情な父」「汗臭い父」、おそらくこのへんだろう。この日のことは今でも妻のグチとなっている。それでもバドミントンに対する情熱は衰える気配はない。

秋の初めには、二番目の子が生まれる予定だが、生まれると同時に子供のところへ飛んで行けるだろうか。

主人と子供に感謝

千葉県習志野市
主婦
岡本咲子

3人目の子供が、今年、やっと1年生に入学した。新しい赤いランドセルを背負って、元気で学校へ通う後姿を見送りながら、母親としての、いとおしさをしみじみ感じる今日この頃です。

この子が赤ちゃんだった頃、乳母車に乗せて、体育館へかよっていた何年か前が走馬燈の如く懐しく思い出されてなりません。

私とバドミントンの出会いは、三児の母になってから、だいぶ太めになったウエストと体重、これは何んとかコントロールしなければいけないと思い運動を始めたのがきっかけでした。

私は習志野市にある袖ヶ浦団地に住んでおりますが、ここは、昭和42年7月に埋立地に出来た三千世帯程の当時モデル団地として誕生しました。早いもので、昨年10周年を迎え、学校を初め、団地祭等で盛大な行事が行なわれました。文教都市である習志野市は、特に体育振興に力を入れ、スポーツ教室が、季節ごとに開催されます。

生まれながらにスポーツ（体を動かす事）が大好きな私でしたので、幼い子供がいましたが、何とか工夫して、卓球、健康体操、水泳、ボーリング、テニス等、チャンスがあるたびに自ら進んで参加して、汗を流し団地の白壁から開放され、お友達も沢山できて参加する事が一つの楽しみになりました。

そんな時、最後にめぐり合ったバドミントンは、私の第二の恋人となってしまったのです。いくつかやっていたスポーツも、今ではバドミントンだけに情熱を傾け、老体にムチ打って若い方について懸命にシャトルを追いかけているのです……。

思えば、昭和48年10月に第28回国体が千葉県で開催され、袖ヶ浦体育館がボクシングの会場となったのです。それにあわせて、1年前に立派な体育館が出来上り、たまたま一般開放日に、バドミントンの経験者である主婦の杉野さん（あじさいクラブの創立者）より一つ一つ教えてもらいました。なにしろ生れて初めて握るラケットも、軟式テニスの握り方で、サーブも高くシャトルを上げて打ってみたり、珍プレーの連続でした。ただの羽根つきとはぜんぜん違うのにビックリしたものでした。練習を終え、ここちよい運動量と、シャトルを追う無心さと、打ったシャトルがヒットした時のさわやかな満足感が全身にみなぎり、家の事も、年齢も忘れて、学生時代の気持にかえれる楽しい一時にひたりました。そして、昭和47年10月末に、開放日に参加した人達でグループを作り、市の花である〝あじさい〟の名前にちなんで〝あじさいクラブ〟が生まれ、そのメンバーであることに誇りを持って現在にいたっております。金曜日の1時より3時までの練習日がどんなに待ち遠しく思えたことか、バドミントンをなさっている皆様には理解していただける事と思います。朝からそわそわして昼食もそこそこに体育館へと一目散。生後八ヶ月のまゆみとミルクのびん、昼寝用のゴザ、毛布等を乳母車につんで、体育館の舞台の上で、シャトルコックの音を子守歌にしてよく昼寝をさせたものでした。又、友人の協力をえて、交代でめんどうをみながら練習を続けました。しかし、せっかくコートに入れたのに、子供がヨチヨチとママの後を追ってついてきてしまいます。パートナーにも迷惑がかかるし、自分もイライ

私とバドミントン

ラするし、何度もやめようかと苦しみました。午前中は十分に遊ばせて、午後から昼寝できる様に努力し、また気を持ち直して、練習に試合に参加すると、楽しさも増しとうとう頑張り通してしまいました。

数々の思い出の中でまず第一は、昭和48年10月13日、国体の聖火ランナー随走員として、十二名のランナーの中にバドミントンから代表して、福原さんと私が参加できたのです。

主婦が、男性の中にまじって走るのです。2キロを10分間で完走しなければなりません。1ヶ月間は、毎晩九時に団地一周して足を鍛えました。無事に聖火をバトンタッチし、走り終えた喜びは何物にもかえられないものでした。「一つの事を責任を持って果たす」これはチームワークでもあり、バドミントンのスポーツを通して得た大切な私の財産となっております。

もう一つは、昭和50年6月17日に、第3回家庭婦人バドミントン関東大会に於てダブルス団体戦に見事優勝できたことです。バドミントンを始めて2年と少し、メンバーも充実していて、一番盛り上りのあった時だったのでしょう。きまって来てくれるコーチもなく、我流ながら、オーダーの出し方もジャンケンできめる有り様でした。しかし、チームの底力を十分に発揮できたよい試合が、優勝に結びついたのだと信じております。

その後、団地の特質である移転が多く、仲間は次々と思い出を残して去って行きました。時の流れにさからうことは出来ません。初めからのメンバーは2人だけになってしまいました。しかし2期生、3期生の人達との輪も広がり、現在を大切に未来に向って〝あじさいの大輪の花〟を咲かすべく努力に努力を重ねております。

私もこの楽しみとなったバドミントンを子供や孫の代まで続くように、母である私が健康第一に頑張らねばと練習に汗を流しております。第6回家庭婦人の関東大会も六月に開かれる事が決定しました。又、クラブのメンバーとして参加出来る喜びと、健康で今日まで過ごせた幸せを、文句を言いながらも協力せざるをえない主人と三人の子供に感謝しながらペンを置かせていただきます。

ハリと潤いが出る

福井県敦賀市
主婦
福田廣美

私が、バドミントンと出会ったのは、中学生の時だったと思います。

当時、私の通っていた中学の隣が敦賀高校だったので、時々、高校の体育館へクラブ活動を見に行き、何となく私もやってみたいなあと思い始めたのがきっかけで、私も高校へ行ってしてみたいという気持が、だんだん強くなりました。

それまでは、別に高校なんか行かなくてもよいと思っていたのですが、バドミントンをしたくて、高校へ行ったみたいなものです。だから、入学してすぐ入部しました。

中学の時、一応クラブ活動でバスケットをやっていましたが、トレーニングというのは、あまりやっていなかったので、入部して上級生から、いざり、うさぎ跳び、手押車、足上げ、腹筋、腕立て、ランニング、ダッシュ、その他色々教えられ、慣れるまでは階段を下りる時、便所へ行く時、足を曲げると痛いのなんの、こんなにもしなくてはいけないものなのかなあと思ってみたものです。ラケットを持って振ってみたいのに、なかなか持たせ

てくれず、もっぱら体力作りばっかりしたように覚えています。

約一ヶ月後だったかなあ?ラケットの持ち方、振り方を教わったのは。そしたら、今度は、ラケット振りばっかり。

でも、それも仕方がないと思う。何しろ、ずぶの素人ばかりだから一から教えてもらわなくちゃなんにもならないし、コートの中で上級生が打ち合っているのを見ながら、私もいつか、コートの中で打てる日が、来るだろうと思いつつ、熱心に通いました。

入部当時、一年生部員は40人からいたのにトレーニングについて行けない人があり、だんだん減り、夏休みに入ると、ガサッと減りました。でも夏休みは思う存分打てた様に記憶に残っています。

今思うと、高校時代3年間やっていたわりには、たいして上手にならなかった様な気がします。それもそのはずかもしれません。

なぜかというと、インターハイに出場出来ればもう、頂点に達したと思っていたから、そのあとあまり練習しなかったようでした。

高校3年の春季大会で団体優勝し、シングルスで個人優勝して、インターハイへ行く切符を手に入れたから、練習しなかったのが、だめだった原因のようです。

コーチも「インターハイへ行くのだから、もっと気を入れて練習せなあかんぞ」と言われた様な気もしているけど、私達メンバー四人は、インターハイへ行けたらそれでいいと思っていたから、ろくに練習もしませんでした。だから、インターハイへ行って、1回戦全種目敗退、さみしいものでした。



どの顔も若さ(?)でいっぱい

高校卒業して以来、独身の時は全然バドミントンをせず、今思うとその時、なぜしなかったのか疑問に……。独身の時は気軽にどこへでも、泊り込みしてでも試合に出られたのにとつくづく考えます。

結婚して、子供を1人出産してから、市民体育大会にバドミントンの競技があり、地区の人が人数が足りないので、高校の時やっていたならぜひ出てくれと言われて、それもなんとなしに出て、それからは、子供を連れて、子守りがてら体育館へ行き、練習を始め出しました。まだその時はスポーツクラブといって、卓球とバドミントンが週1回やっていました。それにその時は婦人の中に経験者がなく、私1人が学生時代にやっていたように覚えています。

でも、年に1回、バドミントン教室があり、その時、市バドミントン協会の原さん(高校時代のコーチ)それに、当時、市体育課勤務の寺崎さん(高校時代の二年先輩)が婦人のバドミントンの面倒を見にきてくれました。そのバドミントン教室を終えた人達がだんだん多くなり婦人のバドミントン愛好者も増え、今ではバードクラブとなり、私もその一員となり、みんなと楽しくバドミントンをやっています。バドミントンは今や生活の一部分になっています。練習に行く時は、朝のかたづけ

私とバドミントン

物、洗濯、そうじなど手早く切り上げ、祖母がいる時は、2歳になる娘を見てもらって、いない時は、一緒に体育館へ連れて行きます。

上の息子も、今では小学校二年になりましたが、小さい時は私と一緒に体育館へ通いました。その時はまだよく似た年頃の子供達が多勢いた様な気がしますか、今はバドミントン仲間の人に見てもらって楽しんでいます。

主人に言わせると「おまえはバドミントンの事だけ考えとればええのやなあ」と私に言います。確かにそうかもしれないけど、バドがあるから、生活にハリと潤いが出てきて、毎日が充実しているのじゃないかと自分に言い聞かせています。もしバドがなかったら、毎日をのんべんだらりとただなんとなく過ごしているのじゃないかと思います。

私にとってバドはなくてはならない存在になっています。

上の娘も大きくなったら、家族バドを楽しみたいと今心の中で思っています。

うちの主人も学生時代、テニスをやっていたので、家族でするのなら十分楽しめるのじゃないかと思い、夜話してみたら、ただ笑ってすましてました。まんざらいやじゃないのだなあと自分で解釈し、いつの日か親子バドをする時が来るようにと思っています。でも子供達はだんだん成長して行くけど、私達は年々、年をとって行くのだから体力を十分に持っていなくてはだめだと思い、ランニングを欠かさずやって行くつもりでいます。

それに、けがをしないためにも、ランニングをしていれば精神的、肉体的にも楽になるし、スムーズに足が出るような気がしています。気がしているだけで実際はどうなっているのかわかりませんけど……

年々試合に参加するのが増えてきて、こんなに楽しんだら、何かバチがあたりそうな気がします。クラブの人達もみんな「こんなに出来て私達は幸福やね」と言っている人がいます。私もその一人ですけど、

市立体育館はクラブの為に週一回は無料で、午前十時から十二時の二時間は貸して下さるし、その他はあいていれば一般開放で、一人三十円払えば午前、午後問わず借りれるし、その他、勤労福祉センターの体育館も一般開放の時はいつでも借りれるから、私達はめぐまれています。中には好きでも出来ない人のことを思うとつらいのですが。

これからも健康に気をつけて、ずっと続けて行きたいと思います。

最後になりますが、私のバドきちがいをじっと見守り続けている、うちのだんなさん、おばあちゃんありがとう、私のバドきちがいを理解してくれるから、私は本当に喜こんでいます。これからも出来る限り続けて行きたいので、よろしくお願いします。

ご応募ありがとうございました！

「私とバドミントン」には、多くの皆様からご応募をいただきありがとうございました。ここに4篇を掲載いたしましたが、残念ながら掲載できなかった方々にはおわび申し上げます。掲載の4名の方には、記念品をお送りいたしますので、ご愛用ください。

また、「われらのクラブ」には、毎月のように原稿をお送りいただくことができ、編集部一同喜んでおります。採用の方には、シャトルコックあるいはネットのいずれかご希望のものをお送りいたしました。「われらのクラブ」は今後もずっと続けたいと思いますので、どしどし原稿をお送りください。

写真「決定的瞬間」は、残念ながら応募作品がありませんでした。やはり体育館という暗い中で、千分の一秒でも追い切れないバドミントンのむずかしさのせいでしょう。今後とも、お送りいただければ誌上でご紹介いたしますので、ふるってどうぞ。

バドミントン編集部

われらのクラブ⑫

〝明かるく 楽しく たくましく〟

菊本バドミントン同好会

「菊本バドミントン同好会」は、愛媛県新居浜市の住友化学㈱・菊本工場にあります。

この会は、昭和47年、余暇の有効利用の一環として、愛好者の手によって生まれました。

それ以来、会員の協力と努力によって着実な前進を続け、バドミントン関係者の間では、「愛媛県に菊本同好会あり」という存在にまで成長しました。

会を構成しているのは、初心者からある程度腕に覚えのある人まで多種多様であり、また年齢も、20歳から54歳までと層の厚さを誇り、総勢90人であります。

練習は、毎週土曜日の午前中に行ない、皆んな真剣かつ和気あいあいの中、楽しみながらお互いの体力、技術の向上を目指して励んでいます。

会の方針としては、余暇とスポーツで楽しく汗を流し、会員相互の親睦を温ため、地域活動への積極的参加の拡大、地域社会との融和をはかることです。

その結果が、昭和53年度愛媛県クラブ対抗団体戦に優勝、準優勝。また、市民バドミントン大会、校区対抗戦では各クラスの主力メンバーを占めるという嬉しい事態を招いているわけです。

こういった実績から、53年度には新居浜市バドミントン協会から〝第1回功労賞〟を受賞しました。

同好会としては、これをステップとして、さらに飛躍すべく、〝明かるく、楽しく、たくましく〟バドミントンに取り組んでいきたいと考えています。

「菊本バドミントン同好会」事務局
宇野　博文



〝菊本バドミントン同好会〟ここにあり

手近にある材料をつかって、ノンフィクションを書いてみることをすすめたが、ふだんほとんど文章を書かない人は、たいてい、なにをテーマにするかに困る、という。

自分の体験を記すのは恥ずかしい、という人もいるかも知れない。それなら、映画を見たら、そのストーリーを短くまとめてみたらどうだろう。これなら入場料以外の〝取材費〟はいらないし、暗いところならメモをとっても恥ずかしいということはないだろう。

なにか手本がほしいという人のために、週刊誌の映画欄の梗概をみてみよう。「週刊文春」6月22日号の『映画ミニ情報』の豆記事を例にとる。みものきき、つまり、これから観賞する人たちへのガイドだから要点をわざと省くこともある。

テキサス魂（米）初老を迎えたカウボーイが、相棒と共に弟の遺産である売春宿の経営にのり出すが、肌に合わず、再び以前の牛追い稼業に戻っていく…。思ったより簡単である。これなら誰でも書けそうではないか。もう少しくわしい紹介の例。「週刊新潮」6月22日号より。

冬の華（東映）「幸福の黄色いハンカチ」「八甲田山」の高倉健が古巣の東映に戻り、倉本聡が脚本を手がけた現代版〝あしながおじさん〟。関東の東竜会幹部・加納は寝返った兄貴分の松岡を殺害、刑務所に服役するが、松岡の幼い娘が気になり、弟分を通じて金品を送り続けていた。そして十五年、出所した加納は女学生の群れの中にその娘を見つけるが……。

こちらは、主演男優の最近の動きやシナリオライターのこと、さらにこの映画はウエブスターの「あしながおじさん」と類似した作品であるという、ストーリーとは別の情報や評価がつけ加えられている。「関東の東竜会……」から終りまで、二つの文章になるが、練習のため、これを二つの文章、あるいは一つの長いセンテンスにまとめなおしてみるとよい。また句読点の打ちかたなども工夫して変えてみると参考になる。

映画を見たあとでストーリーを思い出して書いてみると、案外自分がムードだけを楽しんで、デテール（くわしい事柄）を見逃がしていたことに気づくだろう。こんどは、見たあとで、なにかまとめようと思いながら映画を見てみると、ふだん気づかないようなこまかい点に注意するようになっていることがわかると思う。

こうした意識的な努力とこまかい点の描写こそ、よい作文、よいノンフィクションをまとめるコツである。

さてこんどは、以前見た映画を記憶をたどってメモにとってみよう。

ノンフィクション・アラカルト④

「寅さん」をまとめれば

放送ジャーナリスト　高田正純

材料とは、誰でも知っている『男はつらいよ』（山田洋次監督、渥美清主演）を使ってみる。「私、生まれも育ちも葛飾柴又です。帝釈天で産湯をつかい、姓は車、名は寅次郎、人呼んでフーテンの寅と発します…」というあの威勢のいいタンカではじまる、「寅さん」の物語である。

この十年間に盆と正月の二回、計二十作のシリーズが生れ、国民三人に一人に当たる推定三千万人という驚異的な動員数を記録した映画である。読者も一度や二度は見た記憶があるに違いない。

さてこの寅さんのイメージと毎度の失恋と放浪について、頭の中で想像して四百字以内で書いてみてほしい（30分）。江戸川のほとりの帝釈天の参道沿いの小さな団子屋「とらや」を舞台とする、おなじみの下町人情喜劇である。ダボシャツの上に襟を立てたままの薄茶のチェックの背広姿、あみだにかぶったソフト。古びたトランク。雪駄……。妹のさくらとおいちゃん、おばちゃん、隣りの印刷屋の主人タコ……。

模範解答というほどではないが、参考例としてまとめてみたものを次にかかげておく。

「フーテンの寅」こと車寅次郎は、東京の下町生まれの四十男。威勢のいいタンカの口先ひとつで客を集め、あやしげな品物を売りつける。通称テキ屋である。まだ独身の彼は、「俺は出ていく旅の空」、というわけでいつも放浪の身である。

生れ故郷の柴又には、たった一人の肉身のさくらや叔父夫婦がいて、寅さんがヤクザ稼業からアシを洗い、「地道な暮らし」に入って世帯をもつよう望んでいる。寅さんは旅先で望郷の念にかられると、柴又に戻ってくるが、その都度美しい女性に岡惚れ。結局、失恋して一人淋しく旅に出ていく。これが毎回おなじみの筋書きで、たいていこのあと、葉書きを読み上げる寅さんの声がする。「拝啓、その後お元気ですか、私こと、思いおこせば恥かしきことの数々、今はただひたすら反省の日々を過ごしております」。

読者の「寅さん」の描写はどうか。もちろん、どの要素を省き、どこを強調するかは、書き手によって異なるのは当然、そこが、文章の個性でもある。今回は映画だけを材料にノンフィクションのまとめかたを説明してみた。読者も折にふれて、さまざまなテーマで文章を書いてみられるとよい。

電電東京が5度目

男子団体――シングルスで奮起



通算5度目の優勝を果たし喜色満面の電電東京チーム

夏の到来を告げる第28回全日本実業団バドミントン選手権大会が、6月13日の開会式を皮切りに、18日までの連日のうだるような暑さの中、東京・駒沢体育館、駒沢球技場、世田谷区立体育館、江東区スポーツ会館の4会場で行なわれた。

団体は、男子は優勝候補の一角、電電東京が通算5度目の優勝に輝き、女子は質量ともに豊富なサントリーが、圧倒的な強さで3連勝を飾った。

男子単は、本命視されていた銭谷（カワサキ）が辻（ヨネックス）に敗れる波乱が起こり、瀬死の状態から浮かび上がった土田が初優勝。

女子単は、湯木（カワサキ）、徳田（サントリー）をファイナルゲームの末に降した近藤（カワサキ）が、辛くも初の王座についた。

男子複は、大砲2門を揃えた栂野尾・飯野組（ヨネックス）が、しぶとく粘る今泉・牧野組（高岡市役所）を突き放して4連覇を果たした。

女子複も、全英チャンピオンの徳田・高田組（サントリー）が、今田・米倉組（電電東京）に1ゲームを取られただけの完勝で貫禄を示し2連勝。

混合複は、昨年の実業団、全日本の二冠を制し進境著しい日下・牛田組（百十四銀行）が、さながら無人の境を行く試合ぶりでこれも昨年に引き続き2連勝を飾った。

30歳以上単は、4年連続の顔合わせとなったが、スピードに勝る渡辺（横浜市役所）が、疲れの見えた鈴木（三菱重工横浜）を振り切って3年連続優勝。

30歳以上複は、エネルギッシュに打ちまくった森谷・星野組（電電東京）の2連勝。

40歳以上単は、高橋（いすゞ自動車）が、遠藤（日本鋼管）の3連覇を阻止して初優勝を飾り、複は岡崎・飴谷組（日本火災七尾）が、昨年と同じく伊藤・鬼頭組（電電東海）を決勝で降して2年連続優勝を果たした。

▽男子団体準々決勝

河崎ラケット 3―1 関東自工

ヨネックス 3―0 スワロー化研

電電東京 3―0 電電北海道

高岡市役所 3―0 トヨタ自工

▽同準決勝

ヨネックス 3―0 河崎ラケット

●全日本実業団

サントリー3年連続

女子団体——谷・秋本が殊勲



惜しくも三冠は逃がしたが勢い天を突く活躍のサントリーチーム

▽女子団体準々決勝

サントリー	3—0	関東自工	
高松琴平電鉄	3—2	ヨネックス	
旭光学	3—0	百十四銀行	
河崎ラケット	3—2	電電東京	

▽同準決勝

徳田	15 15	高松琴平	
高田	15 3	電鉄	
谷	15 15	平井	
秋本	8 6	山田	
東海林	5 11 9	石原	
徳田	11 11	平井	
近藤	11 11	日山	
湯木	15 13 15	沼能	
千葉	8 18 4	日向野	
近藤	15 15	日山	
渡辺	6 9	増山	
河崎ラケット	3—0	旭光学	

▽同決勝

サントリー	3—1	高松琴平電鉄	
河崎ラケット	3—1	日山	

▽同決勝

池田	15 15	梶野尾	
尾崎	9 15	米沢	
土田	9 15	今泉	
池田	15 15	牧野	
尾崎	3 15 8	梶野尾	
土田所	15 18	大場辻	
尾崎	17 5 15	梶野尾	
土田	15 15	飯野	
電電東京	3—1	ヨネックス	

（電電東京は通算5度目）

梶野尾	15 15	今井	
飯野	5 4	斉藤	
大場辻	15 15 9	銭谷	
飯野	18 15	斉藤	
電電東京	3—2	高岡市役所	
池田	15 17	米沢	
尾崎	1 15	米原	
土田所	15 15	今泉	
尾崎	6 3	牧野	
土田	3 8	米沢	
池田	15 15	牧野	
土田	9 11	今泉	
池田	15 15	牧野	

土田、苦闘の初栄冠

男子単——本命銭谷は辻に完敗



苦戦の連続ながら、銭谷の思わぬ敗退に漁夫の利を得て初優勝の土田証雄選手

徳田	2				0	近藤
高田	2	15—5	15—2		0	渡辺
谷						
秋本	2	17—14	17—14		0	湯木
高田	1	6—11	11—6	10—12	2	近藤
徳田	2	11—0	11—0		0	千葉

（サントリーは3連勝3度目）

男子は、電電東京、ヨネックス、河崎ラケットが優劣つけ難い3強を形成していたが、昨年の覇者河崎ラケットは、準々決勝の対関東自工戦で、中井が右足首捻挫というアクシデントに見舞われヨネックスに敗れ去った。

中井が完調ならば、と思わせるオーダーだっただけに、この思わぬ事故が河崎ラケットの命取りになった。

電電東京対高岡市役所の準決勝では、土田が復活した今泉の技巧と体力の前に敗れるという破綻を来たしたが、最終シングルスでベテラン池田の頑張りに救われた。

久し振りに冴えを見せた今泉は、土田のスマッシュを苦もなくレシーブし、すぐに逆襲に転じる体の切れが抜群で、往年のプレー復活の感があった。「オーバーワークと思うほど走り込んだ」と本人が漏らすように、脚の筋肉が盛り上がり、昨年の不振が信じられない充実ぶりだった。

決勝の電電東京対ヨネックスは、シングルスに分のあるヨネックス有利と思われたが、栂野尾が苦手尾崎に当たる不運で、野望達成はならなかった。

尾崎は決勝戦というプレッシャーに耐え、分岐点になるシングルスに勝ち、久々に勝利の立役者となった。

電電東京の優勝は、弱点と思われていたシングルスに、ベテランが奮起し、互いの穴をカバーし合う〝好循環〟が生まれたことだろう。

ヨネックスは、十分優勝できる陣容を持ちながら、肝心の決勝で栂野尾が、相性の悪い尾崎と当って、団体優勝の難しさを実証した。

女子は、サントリーのまったくの独壇場であり、対抗馬と見られた河崎ラケットも、湯木・千葉組の予想外の敗戦に、興味半減の決勝戦となった。

湯木・千葉組は、2ゲームともゲームポイントを握りながら、谷・秋本の追撃につかまったの

●全日本実業団

近藤、初陣を飾る

女子単——湯木・徳田に気力勝ち



湯木、徳田を連破し、見事に“三つどもえ”から抜け出した近藤小織選手

はいただけない。

最終シングルスの湯木の勝利は、ほぼ固かっただけに、このダブルスの一戦がすべてだった。サントリーにしてみれば、最悪のオーダーだったが、谷・秋本の殊勲でこれを切り抜けたことは、勢いに乗ったチームの恐さというものをまざまざと見せつけた一番だった。

▽男子単準々決勝

辻 2 (15—5 15—10) 0 銭谷

栂野尾 2 (15—3 15—4 11—15) 1 日下

飯野 2 (15—1 15—3 6—15) 1 笠井

土田 2 (15—11 15—9 3—15) 1 今泉

▽同準決勝

辻 2 (15—2 15—12) 0 栂野尾

土田 2 (15—6 15—1) 0 飯野

▽同決勝

土田 2 (15—10 15—2) 0 辻

（土田は初優勝）

▽男子複準々決勝

栂野尾 2 (18—13 15—6) 0 米沢・米原

▽同準決勝

土田 2 (15—11 15—9 3—15) 1 今泉

飯野 2 (15—1 15—3 6—15) 1 笠井

栂野尾 2 (15—3 15—4 11—15) 1 日下

辻 2 (15—5 15—10) 0 銭谷

▽同決勝

栂野尾 2 (15—9 15—6 16—17) 1 牧野 今泉・飯野

（栂野尾・飯野組は4連勝4度目）

▽女子単準々決勝

徳田 2 (11—1 11—2) 0 東海林

米倉 2 (11—4 11—5) 0 秋本

近藤 2 (11—7 11—5) 0 高田

湯木 2 (11—8 11—8) 0 西尾

▽準決勝

近藤 2 (11—6 12—10 10—12) 1 湯木

徳田 2 (11—3 11—3) 0 米倉

▽同準決勝

栂野尾 2 (15—6 15—12) 0 池田・尾崎

飯野 2 (15—6 15—12) 0 尾崎・田所

今泉 2 (15—11 15—12) 0 田所・土田

牧野 2 (15—4 15—7) 0 高橋

池田・尾崎 2 (15—7 15—13) 0 木村・遠藤

田所・土田 2 (15—5 18—17) 0 大場・辻

今泉・牧野 2 (15—4 15—7) 0 笠井・高橋

▽同決勝

栂野尾・飯野 2 (15—9 15—6 16—17) 1 今泉・牧野

今泉・牧野 2 (15—11 15—12) 0 田所・土田

ファッショナブル・スポーツ——バドミントン。

厳選された豊富さでお応えいたします。 BADMINTON

ファッション性とスポーツ性——この2つをより合わせ持つファッショナブル・スポーツーバドミントンの感覚を肌で感じにいらっしゃいませんか——！

色あざやかにそして機能性も豊かなウェアやバッグなど——バドミントンのすべてが常にフレッシュな状態でスタンバイ。

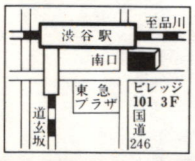
日本最大の専門店 ウインザー ラケットショップ。

毎月曜日定休・祝祭日を除く

渋谷店

東京都渋谷区桜ヶ丘町1-7(ビレッジ101ビル3階) TEL03-464-9251-2〒150

●営業時間／午前10時～午後7時30分





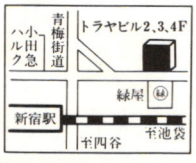


毎月曜日定休・祝祭日を除く

新宿店

東京都新宿区西新宿7-10-20(トラヤビル2,3,4階緑屋前) TEL03-363-6848 〒160

●●●営業時間／午前10時～午後7時







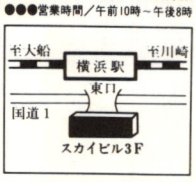
年中無休

横浜店

横浜市西区高島町2－1　横浜駅東口

(スカイビル3階) TEL045-461-1785〒220

●●●営業時間／午前10時～午後8時



WINDSOR RACKET SHOP

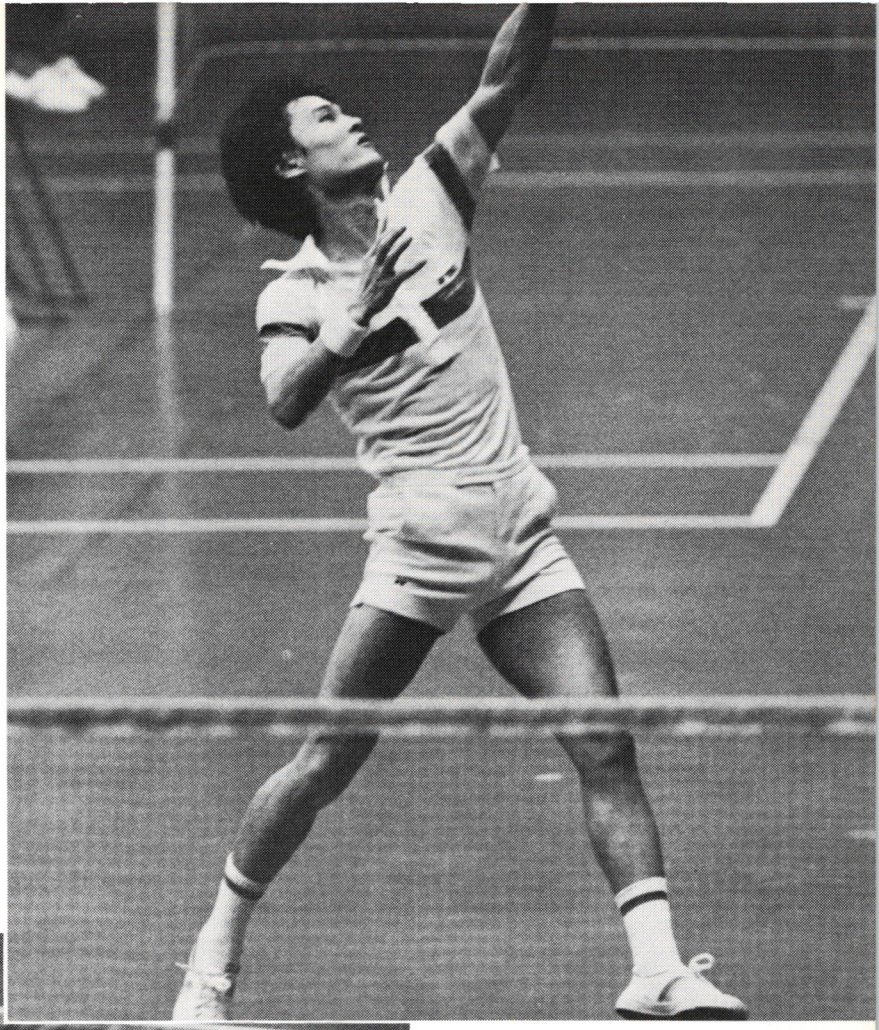


着るもよし。持つもよし。こちらヨネックス感覚。

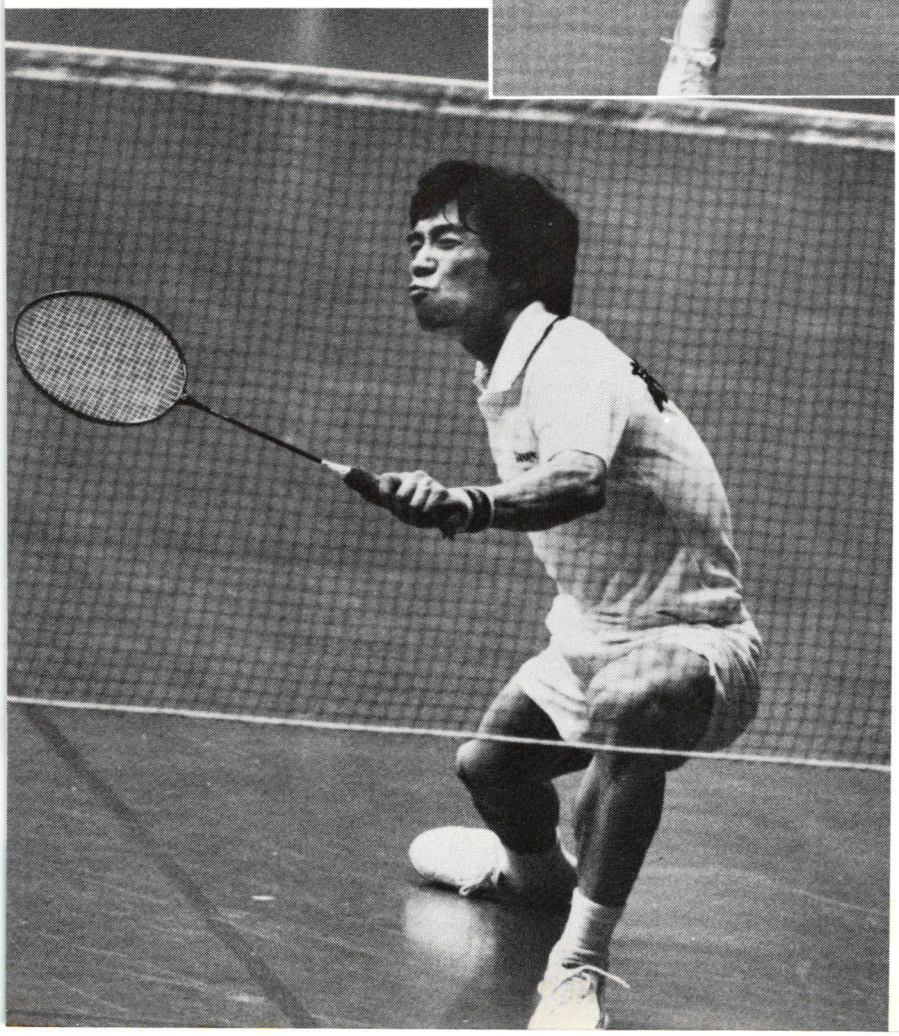
機能をつきつめたものは美しい。ヨネックスはこの考えを基にして、たくさんのスポーツウエアをおとどけしています。白を基調に、ヨネックスのシンボルカラーであるブルー& グリーンをアクセントにしたもの、そのほかシャレた色づかいのものなど、種類もサイズも豊富です。年齢や性別をこえ、国境をこえて、トッププレイヤー達の身をつつんでいます。またスポーツバッグにしても、細かい親切設計でデザインされています。同じ型でありながら一週間用、4～5日用、1～2日用など大・中・小とそろえたり、多目的に使えるものもあったりで、選ぶ楽しさじゅうぶん。色は白が中心ですが、濃緑、濃紺、茶などいろいろあります。さて、スポーツシューズもヨネックスの自慢。靴底が機能的な設計ですから、フットワークが生きてきます。スポーツをサイエンスの目でとらえ、そして美しい形を仕上げる芸当。これぞヨネックス感覚です。

YONEX®

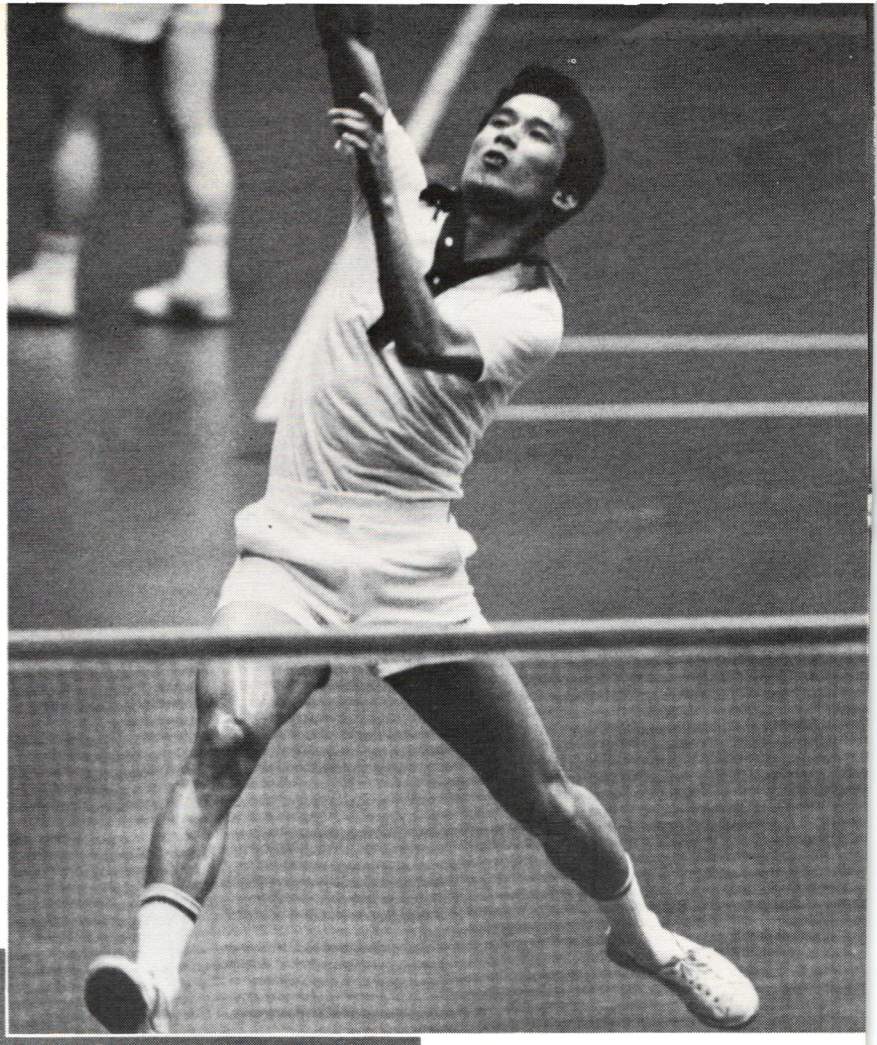
白熱した全日本実業団選手権から



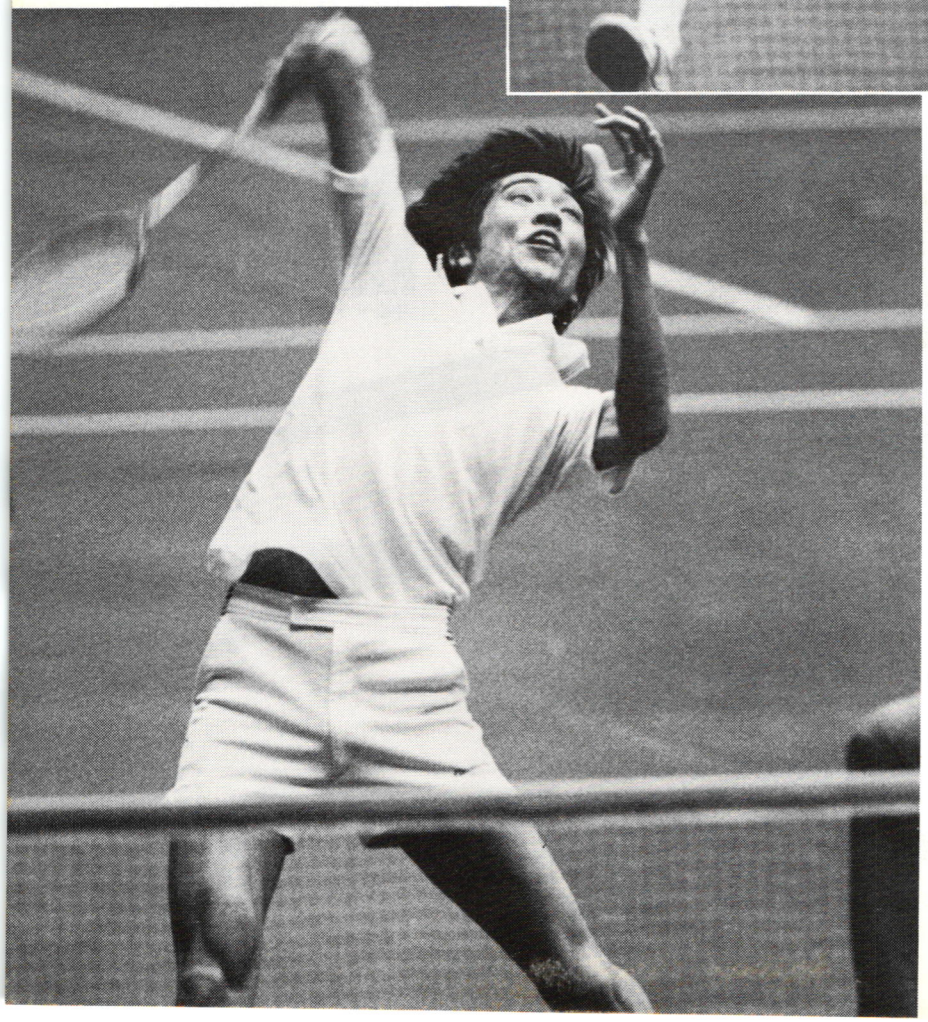
▶〝綱渡り〟ながら勝負強いところを見せた土田選手



◀団体戦では土田を破る殊勲の今泉選手



▶一躍クローズアップされた辻選手

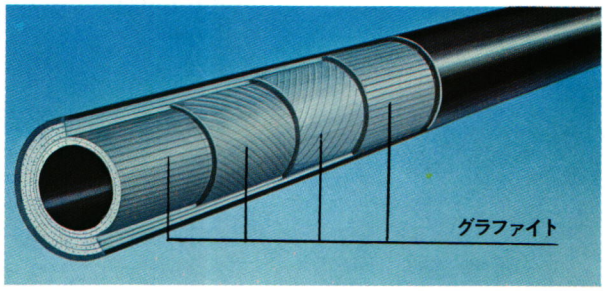


◀この敗戦を無駄にはしてほしくない銭谷選手

E RACKET

世界初の100%
グラファイトシャフト

画期的なものを生むためには冒険が必要です。B−82・B-80もこの例にもれません。グラファイトファイバー繊維は異方性にとむ性質で、配列しだいでは性能が大きく変わります。カワサキはこの難問を独特のクロス加工で解消。方向の異なるグラファイト繊維を4層に重ね合わせ、素材のもつ特性を最大限に引き出しました。これこそ世界が待ち望んでいた理想のラケット。スチールパイプにカーボンをまきつけただけというラケットとは威力が違います。この完成度の高さはカワサキならではのもの。



kawasaki
河崎ラケット工業株式会社

AFT

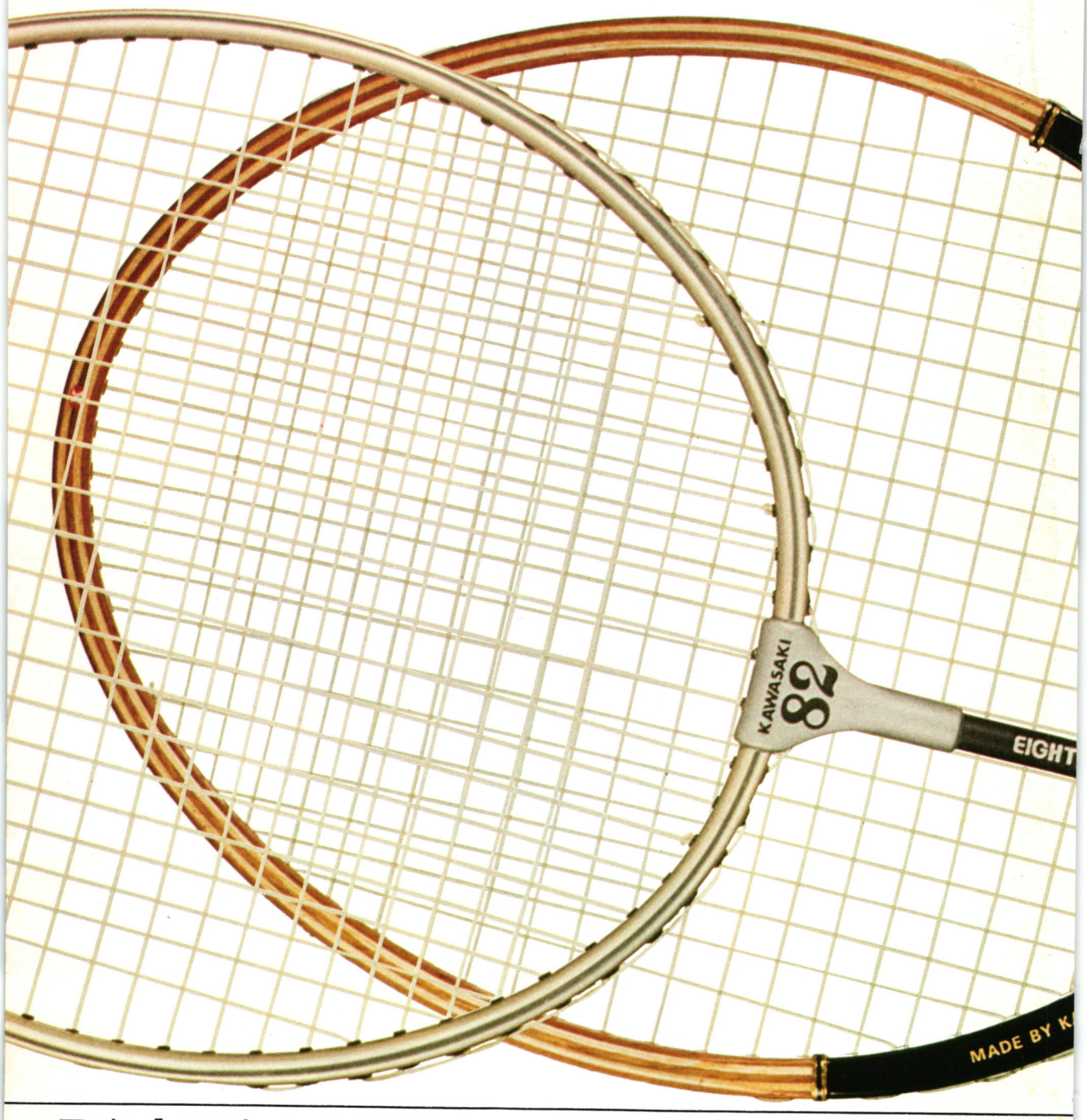
B-82

グラファイトシャフト アルミフレーム シルバー(ケース付)
フレーム価格8,000円 ガット張り上り価格8,700円

B-80

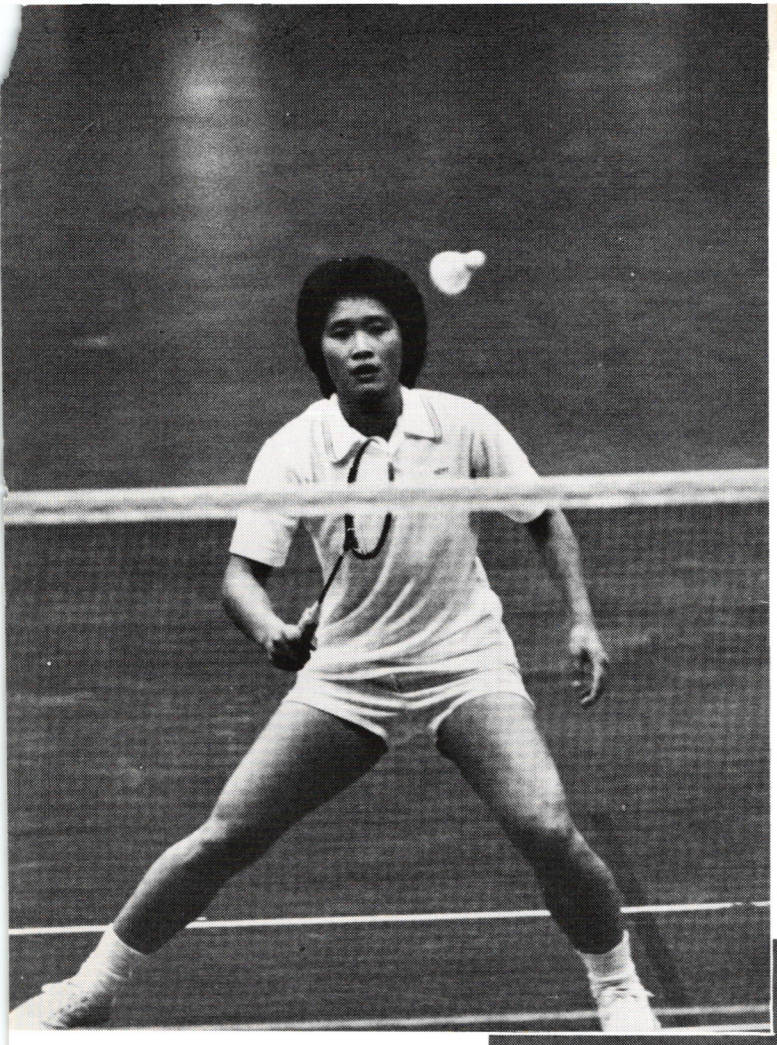
グラファイトシャフト ウッドフレーム 黒(ケース付)
フレーム価格7,700円 ガット張り上り価格8,400円

GRAPHIT

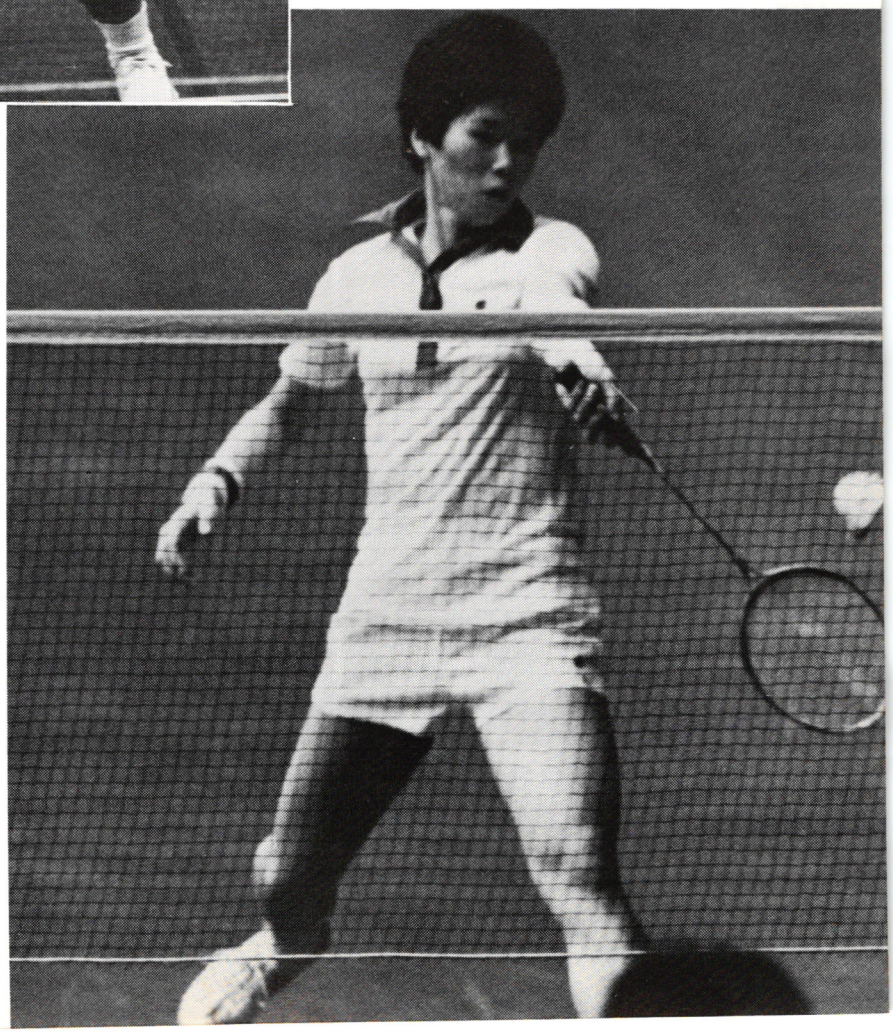


スイートスポットの広さがちがう

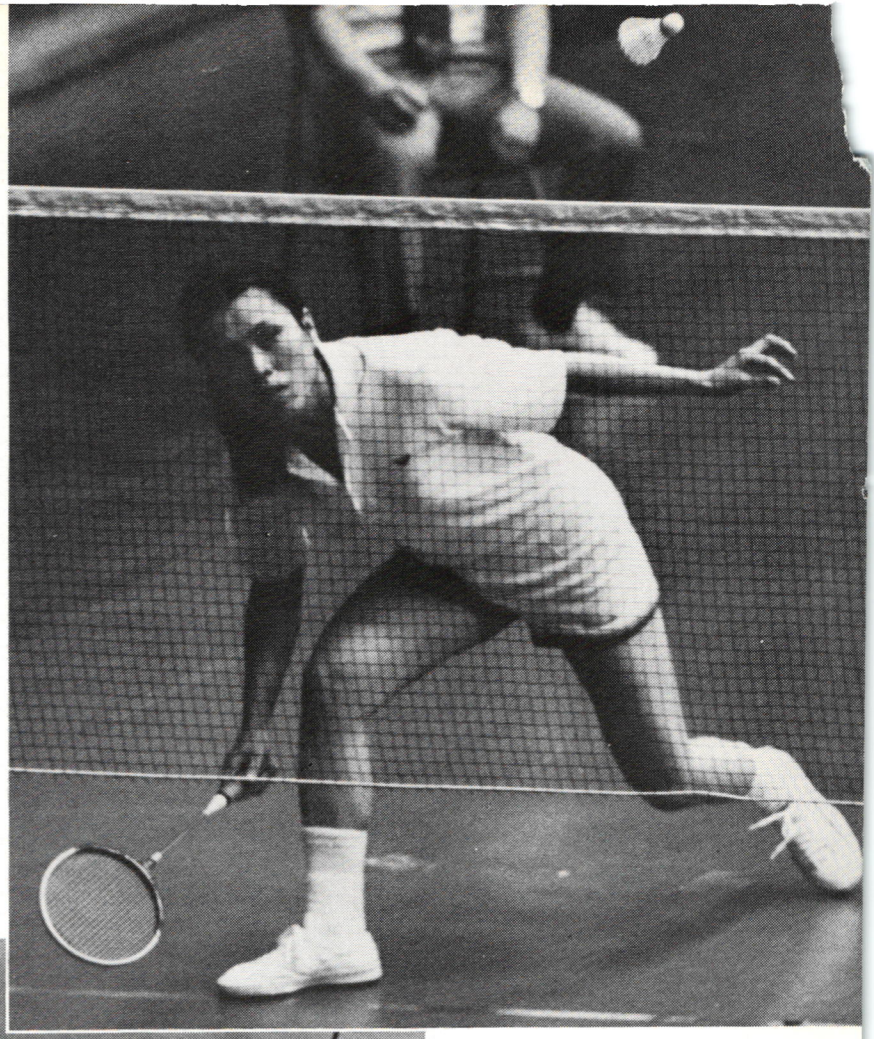
ALL GRAPHITE SH



◀〝ここ一本〟の集中力を発揮した近藤選手

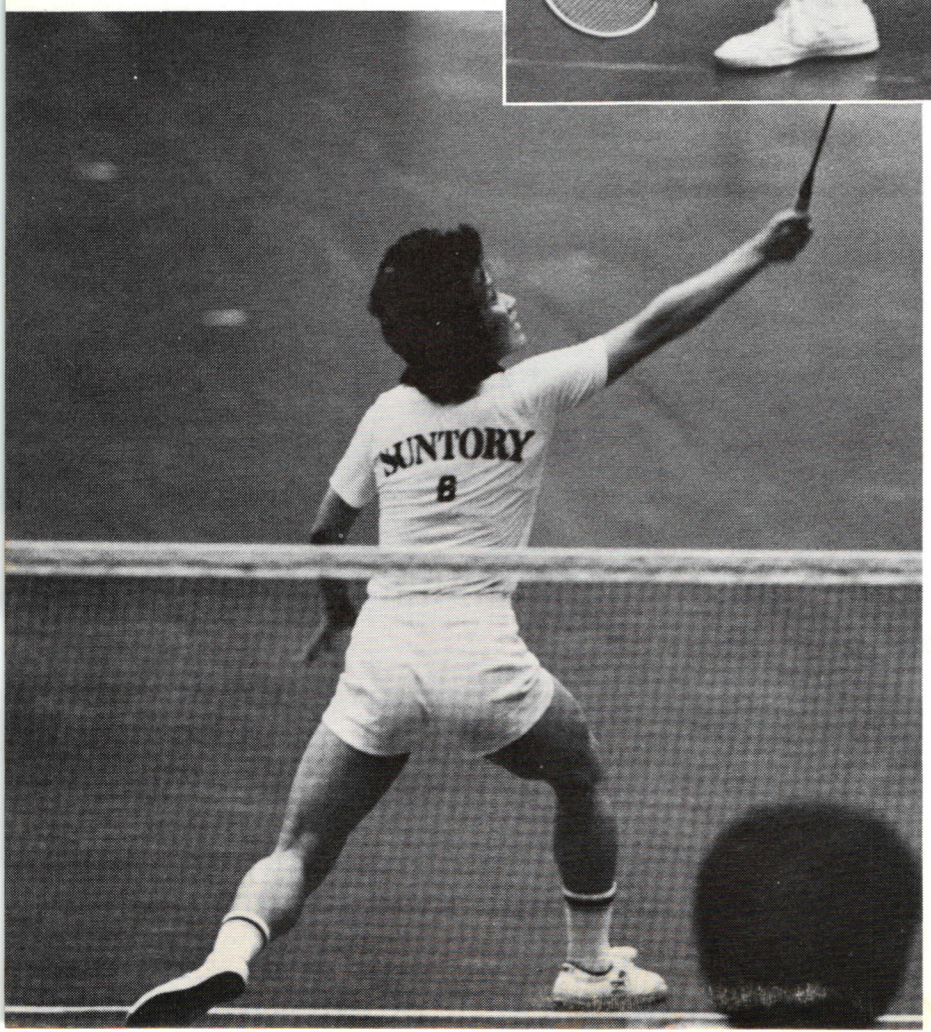


▶ユ杯メンバー植野を降した東海林(とうかいりん)選手



▶暑さのためかやや疲れの見えた湯木選手

〈ダブルス戦のもようは次号で〉



◀弱点のバックハンドをつかれ苦しむ徳田選手



竹の特性を生かした話題の バンブーラケット。ハイ・トーマス

No. B45 ハイ・トーマス ¥4,800　★最高級選手用ロングテーパーシャフト フレーム・カバー付

竹製なればこそ発揮できる威力がバドミントンのプレーに適した材質の特性であることに着目して、その研究成果を集積した、バンブーラケット〈ハイ・トーマス〉。竹と木の合板による強靭なフレームと細くて長いテーパーシャフトによる抜群の反撥力と反撥音。薄いフレームに竹独特の強さとしなりがシャープな振りと動きを可能にします。ガット張りによるラケットの変形が起らなく、ソフトグリップが手に良くなじみます。

日本バドミントン協会推奨

球ばなれの早い極限の0.75㎜。新発売。

HY-SHEEP Super ハイ・シープ・スーパー



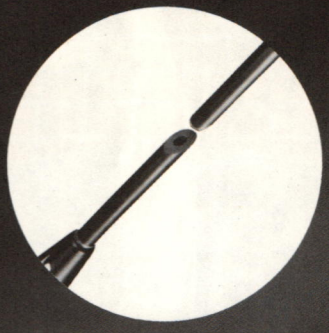
超強力（ナイロン）糸の使用により、インパクト時の摩擦による、ガット切れは解消。細いゲージ（0.75㎜）が球ばなれを早くし、また風による抵抗が少ない為、シャープな振りを生む。打った時の確かな手応えは長期間の使用にもゆるみがなく、常に鋭い反撥力。温度・湿気などに変質しない優れた耐久性は限界を知らない技術の結晶。張り上げがスムーズで色合いも他に類のない、ラケットとのトータルカラー。常に追求を緩めないゴーセンの技術陣が作りあげた、まさに超スーパー級のガットです。

高級トーナメント用〈オレンジ〉¥500

株式会社ゴーセン

■本社●〒540 大阪市東区豊後町4☎(06)942-5816 代　■東京支店●〒111 東京都台東区蔵前4-14-2☎(03)862-6576 代　■福岡営業所●〒810 福岡市中央区薬院1-4-8☎(092)712-5247 代　■北陸営業所●〒921 石川県金沢市横川7-22☎(0762)47-0200 代







CARBO DELUXII

S-79

新製品

カーボデラックスII

カーボデラックス同様、オールカーボンシャフトを使用し、特殊合金フレームをプラスして全て新しいタイプのラケットとして、ここに誕生しました。より軽くそしてよりスピーディでパワーフルな条件をすべて兼ね備えたまさに現在にマッチした、最高のラケットと云えましょう。あなたも最高のラケットでプレーしてみませんか？

CARBO DELUX

S-77

カーボデラックス

スチールカーボンシャフトとは違い、純然たるオールカーボンシャフトを使用。その弾力性は従来のスチールシャフトにないすばらしい反撥力を生みだし、多くの反響を呼んでおります。シャフトを若干太くすることにより左右のブレを解決していますので、アタックにレシーブにこの新しい魅力を十二分に発揮させて下さい。

SunBatta

栂野尾組堂々の4連覇

男子複――今泉組の追撃およばず



圧倒的な速攻の冴えに加え、レシーブ面でも安定した力を発揮して4連勝の栂野尾昌一・飯野佳孝選手

▽同決勝

近藤 2 (12—11 3—11 6—11) 1 徳田

（近藤は初優勝）

▽女子複準々決勝

徳田 2 (15—1 15—15 16—17) 1 今倉田

石原 2 (15—7 15—3) 0 沼能日向野

湯木 2 (15—5 15—1 3—15) 1 平井山田

飯野 2 (17—14 15—8) 0 秋谷

▽同準決勝

徳田 2 (15—0 15—2) 0 石原所

湯木 2 (15—11 15—18 15—8) 1 飯野植野

▽同決勝

徳田 2 (15—7 15—1) 0 湯木千葉

（徳田・高田組は2連勝2度目）

▽混合複準々決勝

日下 2 (15—2 15—0) 0 田児福原

牛田 2 (15—2 15—11) 0 巽早川

古明地 2 (15—2 15—11) 0 稲山

西野 2 (15—3 15—9) 0 鎌田石田

飯野 2 (15—3 15—7) 0 中野柿本

宮崎 2 (15—5 15—7) 0 西尾中野

▽同準決勝

日下 2 (15—5 15—8) 0 古明地稲山

牛田 2 (15—5 15—8) 0 西野飯野

宮崎 2 (15—8 15—7) 0 西尾飯野

▽同決勝

日下 2 (17—15 15—5) 0 宮崎西尾

牛田 2 (17—15 15—5) 0 宮崎西尾

（日下・牛田組は2連勝2度目）

▽30歳以上単準決勝

渡辺 2 (15—0 15—7) 0 山本

鈴木 2 (15—7 15—10) 0 馬場

▽同決勝

渡辺 2 (15—8 15—10) 0 鈴木

（渡辺は3連勝3度目）

▽30歳以上複準決勝

森谷 2 (15—11 15—12) 0 竹俣星野

春武 2 (15—6 15—5) 0 藤原上野

▽同決勝

森谷 2 (15—9 15—10) 0 春武宮原

星野

（森谷・星野組は2連勝2度目）

●全日本実業団

徳田組、自信の完勝

女子複――全英優勝の貫禄しめす



攻守ともに一段と幅のあるプレーを見せ完成に近づいた徳田敦子・高田幹子選手

▽40歳以上単準決勝

遠藤 2 (15―9 15―11) 0 伊藤

高橋 2 (15―11 15―2) 0 堺

▽同決勝

高橋 2 (15―6 15―9) 0 遠藤

（高橋は初優勝）

▽40歳以上複準決勝

岡崎 飴谷 2 (17―14 15―13) 0 遠藤 榎森

伊藤 鬼頭 2 (15―3 18―13) 0 溝渕 武林

▽同決勝

岡崎 飴谷 2 (15―7 15―8) 0 伊藤 鬼頭

（岡崎・飴谷組は2連勝2度目）

個人戦一番のハイライトは、男子シングルス準々決勝、全日本チャンピオンを破った辻の活躍に尽きる。

辻は長身を利した、高い打点からの逆クロススマッシュ、逆クロスカットに威力を発揮、反撃に出ようとする銭谷の芽をことごとく摘み取るようにノータッチとなるエースを放ち、精神的な焦りを誘って完勝した。

銭谷は、攻勢に出ようとするネット前からの〝おっつけ〟を、辻の長いリーチでストップされ、時にはダブルス的なバックスマッシュ気味のリターンに面食らい、なす術がなかった。

辻が「銭谷さんのスマッシュはコースがわかるから恐くなかった」というように、余裕も十分だったのだろう。

それにしても、優勝はしたものの団体戦で敗れた土田といい、個人戦の銭谷といい、トマス杯の主力メンバーがこんな状態では心もとない。

一時のような、爆発的なスマッシュが影をひそめたこの頃、かつての秋山、小島のような正確無比なクリアー、カットを、いち早く身につけなければ、世界の上位進出は、ただの絵空事に終わってしまうだろう。

優勝した土田も、決勝へ進むまでに、鈴木裕（三条機械）、今泉に第1ゲームを先行され、苦戦の連続だった。

しかし、不調ながらも何とか勝つという、シングルスの真骨頂を見せはしたものの、あまりにポカが多いというのも考えものである。

急成長の辻、復調の今泉が今年の活躍を約束する働きだったのに比べ、ベスト8の常連谷口（トヨタ自工）が「腰痛が起っ

日下組、磐石の守り

混合複――安定感十分の2連勝



今年こそ実業団、社会人、オールジャパンの“混合三冠王”の野望に燃え好スタートの日下昇・牛田真由美選手

て練習不足だった」ため精彩がなかった。腰を完治させてもらいたい。

男子ダブルスの梶野尾・飯野組の4連勝は、段違いの破壊力からして順当か。

今泉・牧野組も驚異的な粘りを発揮したが、結局はパワーの差がモノをいった格好。

女子シングルスは、集中力を欠く湯木をファイナルゲームの末破った近藤が、疲労の色濃い徳田を劇的に降して初優勝に輝いた。

第1ゲームを先取した徳田は、第2ゲームに入ると、近藤の執拗なバック側へのクリアー攻撃に手を焼き、スタミナを消耗させてアッサリと棄てる作戦。

ファイナルゲームに賭けた徳田だったが、不得手のバックの奥をつかれ、存分に力を出せず、近藤の気力溢れるガッツプレーに押し切られてしまった。

近藤の勝因は、何といっても徳田の弱点をついたプレースメント。

肩や脚の故障から、しばらく低迷していた近藤に、ポイントごとに声が出ていたのは、「まだ本当に治っていない」というが、明かるい兆しか。

注目を集めたのが東海林（とうかいりん）文子選手。

サントリーにあって地味な存在だったにもかかわらず、着実に力をつけ、ユ杯メンバーの植野を破ったことは特筆に値いする。

女子には数少ないサウスポーという利点を生かせば、シングルスプレーヤーとして特異な存在になるだろう。

女子ダブルスは、全英チャンピオンの実績通り、徳田・高田組の独り舞台。

守備主体だったプレーが、高田のスマッシュ力の進歩により、幅広く攻撃できる〝攻め〟の型が随所に見られた。

唯一の接戦となった今田・米倉戦も第1ゲームまで。相手の球筋に慣れると一方的な強さを見せた。

決勝のスコアでもわかるように、当分の間、この2人の天下は続きそうである。

混合ダブルスも、日下・牛田組の完勝だった。

牛田が前衛、日下が後衛というパターンを持っており、なかなか生半可なローテーションでは崩すのは困難だろう。

日下は、シングルスでも遠藤を破り、ベスト8入りを果たし目下絶好調の気配だった。

演劇随想④

「ハムレット」

放送作家　寺田太郎

イギリスの劇詩人ウィリアム・シェイクスピア（一五六四～一六一六）の代表作に悲劇「ハムレット」五幕二十場がある。長い経過を追うドラマであるが、私には七月の訪れと共に思い出されるひとつの場面がある。しかもそれは、舞台の上では展開されていない……つまり五幕二十場のなかにはない場面なのだが……。

父王の亡霊との出会いによってデンマークの王子ハムレットは、父を殺害したのはいまは母と結ばれている叔父クローディアス王であることを知らされた。

復讐の使命を負ったハムレットは、狂気を装って、廷臣ポローニヤスとその娘で彼の恋人でもあるオフィーリアを欺きつつ、王の面前で旅役者達に劇中劇を演じさせて、暗殺の動かぬ証拠を握った。

だが智勇に優れながらも憂鬱な憶疑家であったためハムレットの復讐の決意は引延し、一方、かねてから疑いを抱いていた王は彼をイングランドに追いやって謀殺を計るのだった。

出発の前、ハムレットは、母との対話を盗み聞きしたポローニヤスを殺害した。それを知ったオフィーリアは発狂して入水。その兄レアティーズはこれを聞き、ハムレットへの報復を決意する。

王の姦計の裏をかいて帰国したハムレットとレアティーズのフェンシングの試合。ハムレットは毒刃に倒れるが、死の前に復讐を遂げる。事実をはじめて知った母も毒の杯を傾ける。主要人物はほとんど死んだが、親友ホレーショによってハムレットの行動はながくこの世に語り継がれることになった……。

さて発狂したオフィーリアは、第四幕第五場では花を持ってとりとめもなく王や王妃に語りかけ歌いかけるのだが、やがて第七場ではもはやその姿を見せないのだ。

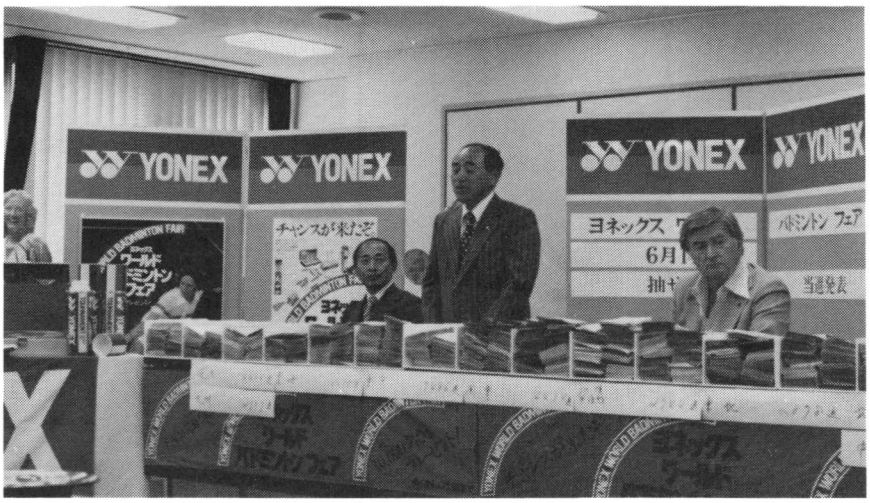
王妃は彼女の死をその兄に告げる「柳の木が小川の上に斜めに、白い葉裏を鏡のような水面に映して立っているあたり、その小枝をとりまぜてあの子は珍しい花冠をつくりました。垂れ下っている枝にそのかわいい花冠を掛けようとあの子が登って行ったとき、意地の悪い小枝が折れて、花輪といっしょにあの子は啜り泣く小川に落ちてしまった。衣裳の裾がひろがって、それに支えられて、人魚のように暫く浮んでいるあいだ、あの子は切れぎれに古い祈りの唄をうたっていました。まるで自分の不幸が分らない人のように、でなければ水に生れてその中に棲みなれていた何かのように。けれどもそれも束のまのことで、やがて着物が、水を吸いこんで重くなり、かわいそうなあの子の唄は川底の泥へ引き込まれて消えてしまった。」（木下順二氏訳）

可憐なオフィーリアの姿が目にうかぶようで、それが私の七月の幻想なのだ。ドラクロアその他の画家が彼女の姿を若く美しくカンバス上に残している。

シェイクスピアの全作品は邦訳されているのだが、あのハムレットの有名な第二の独白 To be or not to be, that is the question, の部分だけを拾ってみると、「死ぬるが増か生くるが増か思案をするはここぞかし（外山正一・矢田部長吉）」「存ふる？　存へぬ？　それが疑問じゃ（坪内逍遙）」「生きるか、死ぬか、それが問題なのだ（市川三喜・松浦嘉一）」「生か、死か、それが疑問だ（福田恆存）」「生きる、知ぬ、それが問題だ（三神勲）」「やる、やらぬ、それが問題だ（小津次郎）」「生き続ける、生き続けない、それがむずかしいところだ（木下順二）」「このままでいいのか、いけないのか、それが問題だ（小田島雄志）」。

……多数の優れた戯曲と詩篇とを残したシェイクスピアなのだが、実はその伝記については不明なところが多いとされている。

当選者決定!!ヨネックス・ワールド・バドミントンフェア



▶ブロック別に山のように積まれた応募ハガキ

ヨネックススポーツが、創業三十周年記念企画の一環といたしまして、日頃ご愛顧いただいております皆様への謝恩セール「**ヨネックス・ワールド・バドミントンフェア**」を本年2月1日から4ヵ月間行なってまいりましたが、5月31日をもって無事終了することができました。

4ヵ月の期間中、総数3万1769通という数多くのご応募をいただきました。そのうち577通の無効ハガキを除き3万1192通の中から、6月14日（水）東京都文京区、東京都電機厚生年金基金会館におきまして、バドミントン界秦様他、業界紙様等お立合いのもと、厳正なる抽選の結果プレゼント商品の当選者が、左記の通り決定しましたのでお知らせ申し上げます。

有効総数3万1192通の地区別応募数は、北海道＝1564通、東北＝2878通、北陸＝964通、甲信越＝1780通、東京＝8986通、関東＝4434通、東海＝1455通、近畿＝4604通、中国＝1302通、四国＝668通、九州＝2557通となっております。

ご当選者　（敬称略）

《バッグA》100点

鈴木龍夫（三鷹市）松本理一郎（新宿区）小池博幸（東松山市）広瀬和子（富山市）山崎明（富山県婦負郡）森昭幸（春日部市）小林信幸（江戸川区）佐藤光明（練馬区）脇山伸一郎（長崎県西彼杵郡）増田利雄（広島市）他90名。

《バッグB》500点

脇俊樹（京都市）田添光子（富山市）浅谷八重子（川崎市）鶴原伸尚（目黒区）石田しのぶ（横浜市）新井正江（岩規市）本丁恵子（荒川区）細井秀明（行田市）神林いし子（練馬区）今堀裕子（大津市）他490名。

《バドミントンポット》500点



◀販売代理店マルコ・コーポレーションのディー氏と米山社長

当選ハガキを抽出するヨネックス・アメリカ東部

平井剛（相模原市）上野康男（練馬区）井口ゆり子（新宿区）鈴木佐和子（浦和市）井上善文（新発田市）村越豊彦（市川市）柏れい子（茨城県鹿島郡）榎本浩司（大和郡山市）谷本卓哉（和光市）坂上明子（小平市）他490名。

《ラケット》300点

中原勉（北区）坂井洋一（長野県埴科郡）江頭サダ子（北九州市）志田都志子（小平市）沼野上潔（日立市）馬場直子（長崎市）西村有加（大津市）宮崎幹朗（稲沢市）松川哲也（山梨市）松浦清子（善通寺市）他290名。

《ウォームアップ》100点

加藤章雄（仙台市）谷昌浩（小平市）河原御暁（横浜市）蓑田雅克（大阪市）三浦明（新潟県北蒲原郡）山村徳太郎（江東区）増田大（越谷市）野上治美（大津市）塩崎美也（高松市）渡辺久江（北海道中川郡）他90名。

《タオル》500点

大久保寛子（藤沢市）鈴木きみ（日立市）小林茂（都留市）吉岡智子（松浦市）佐藤登（天童市）中村秀和（石川県鹿島郡）本田隆（大阪市）峰登志郎（越谷市）島津東臣（埼玉県比企郡）黒川隆（千葉市）他490名。

《ラケットケース》3000点

志村和雄（山梨県南巨摩郡）唐沢洋子（新潟県中頸城郡）林浩史（北区）中川智津子（大阪市）山本弘明（立川市）藪野敏明（西宮市）今泉貴子（宇都宮市）寅谷健策（八戸市）保坂徳子（甲府市）中山政治（福岡市）他2990名。

《ガット》5000点

村田万喜子（鳥取市）藤森哲彦（滋賀県甲賀郡）富岡裕子（佐世保市）和田誠一（横須賀市）柳沢寛（大宮市）笹島恵子（京都市）菊地孝市（横浜市）森角典子（草加市）木下秀代（舞鶴市）橋場信彦（広島市）他4990名。

以上の皆様が当選されました。

当選者の皆様には、ヨネックススポーツよりその旨ご通知を申し上げます。また、プレゼント商品は、ご購入いただきましたお店を通してお渡しいたします。

昭和53年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）
第29回全国高等学校バドミントン選手権大会

会津若松の夏を制するのは!?

高校生〝真夏の祭典〟・全国高等学校総合体育大会（いわゆるインターハイ）は、きたる8月3日から、福島県会津若松で開催されます。

今年は、例年になく梅雨が短く、早くも猛暑が始まっていますが、この開催期間中はとくにそのピークともいうべき頃となり、選手諸君にとっては、まず暑さに勝たねばならないところでしょう。

すでに大半の地区では予選も終了しておりますので、本誌では各都道府県協会に問い合せ、出場校・選手名をここに掲載いたします。

残念ながら原稿最終シメキリの7月3日現在では、下記の地区しか判明しませんでした。収録できなかった地区の方々にはおわび申し上げます。

本大会は野球でいえば甲子園に相当するものですので、ぜひとも各選手は全力を出し切って悔いの残らぬ試合をしてください。

このリスト作成にあたってご協力をいただきました各地方協会の担当者の皆様に、あつくお礼申し上げます。

▼北北海道
BT・帯広柏葉
GT・滝川西
BD・高崎・涌井（帯広農業）
古谷・岩崎（歌志市）
GD・佐藤・中村（砂川南）
桝田・竹川（滝川西）
BS・高橋（滝川）
玉田（帯広三条）
GS・川端（中川商業）
桝田（滝川西）

▼南北海道
BT・栗山
GT・札幌啓北商業
BD・下野・木村（栗山）
弓削・宮井（長沼）
GD・菅原・星野（札幌啓北商業）
道下・荒井（長沼）
BS・伊藤（札幌清田）
青木（伊達）
GS・菅原（札幌啓北商業）
只野（札幌静修）

▼青森県
BT・東奥義塾
GT・千葉学園
BD・高橋・白鳥（東奥義塾）
沢田・工藤（弘前）
GD・柳沼・児玉（千葉学園）
大水・工藤（東奥女子）
BS・白鳥（東奥義塾）
高橋（東奥義塾）
GS・大水（東奥女子）
児玉（千葉学園）

▼秋田県
BT・秋田経大付属
GT・敬愛
BD・越後・佐藤（秋田経大付属）
三浦・梅沢（横手工業）
GD・石郷岡・沢石（敬愛）
大塚・小林（能代）
BS・越後（秋田経大付属）
三浦（横手工業）
GS・石郷岡（敬愛）
須藤（能代北）

▼山形県
BT・日大山形
GT・新庄南

▼新潟県
BT・吉田商業
GT・新潟青陵
BD・山崎・宮野（新潟商業）
今井・高野（吉田商業）
GD・月丘・朝倉（新潟青陵）
中沢・斉藤（新潟青陵）
BS・今井（吉田商業）
高橋（新潟）
GS・月丘（新潟青陵）
中沢（新潟青陵）

▼福島県
BT・会津工業
若松商業
GT・若松女子
郡山商業
BD・清野・渡辺（会津工業）
新田・渡部（会津工業）
安部・五十嵐（喜多方工業）
GD・星・岩渕（若松女子）
竹田・長谷川（若松女子）
村上・橋本（郡山女子）
本多・池田（郡山商業）
BS・新田（会津工業）
本多（若松商業）
五十嵐（喜多方工業）
片平（若松商業）
GS・岩渕（若松女子）
池田（郡山商業）
竹田（若松女子）
坂内（若松女子）

▼栃木県
BT・真岡農業
GT・真岡女子
BD・馬場・高橋（今市）
小野口・坂本（今市）
GD・上野・高田（真岡女子）
海賀・高田（真岡女子）
BS・石川（真岡農業）
小野口（今市）
GS・上野（真岡女子）
海賀（真岡女子）

▼群馬県
BT・桐生市立商業
GT・渋川女子
BD・中島・須田（桐生商業）
中島・小林（桐生商業）
GD・阿久沢・鵜木（渋川女子）

高橋・浅見（渋川女子）
BS・中島（桐生商業）
小林（新島学園）
GS・鵜木（渋川女子）
木暮（渋川女子）

▼千葉県

BT・印幡
GT・昭和学院
BD・鳥羽・湯原（印幡）
春山・塩田（印幡）
GD・上久保・宮崎（昭和学院）
植木・平野（木更津東）
BS・鳥羽（印幡）
佐藤（中央学院）
GS・上久保（昭和学院）
宮崎（昭和学院）

▼東京都

BT・日大鶴ヶ丘
GT・巣鴨女子
BD・田島・山崎（堀越）
西玉・山崎（日大鶴ヶ丘）
GD・平野・湯浅（巣鴨女子）
加藤・大塚（巣鴨女子）
BS・西玉（日大鶴ヶ丘）
浅井（堀越）
GS・平野（巣鴨女子）
湯浅（巣鴨女子）

▼神奈川県

BT・日大日吉
GT・横浜立野
BD・細谷・関口（日大日吉）
豊長・前田（逗子開成）
GD・高山・高井（横浜立野）
斉藤・浅田（松陽）
BS・細谷（日大日吉）
加藤（松陽）
GS・高山（横浜立野）
天田（麻溝台）

▼長野県

BT・更級農業
GT・諏訪二葉
BD・奥原・菅沼（大町北）
宮崎・島田（更級農業）
GD・小池・小池（諏訪二葉）
小松・唐沢（諏訪二葉）
BS・川島（長野東）
奥原（大町北）
GS・広田（長野東）
山田（中野）

▼富山県

BT・高岡商業
GT・藤園女子

▼石川県

BT・金沢市立工業
GT・金城
BD・羽田・酒井（金沢市立工業）
三浦・岩本（金沢市立工業）
GD・中川・黒川（金城）
竹原・小路（金城）
BS・羽田（金沢市立工業）
庄田（金沢二水）
GS・小野（尾山台）
宮本（金城）

▼静岡県

BT・吉原工業
GT・吉原
BD・若松・鈴木（吉原工業）
小長谷・鷺坂（吉原工業）
GD・小幡・芦沢（吉原）
白松・村松（掛川西）
BS・若松（吉原工業）
鈴木（吉原工業）
GS・白松（掛川西）
片山（藤枝西）

▼愛知県

BT・名古屋電気
GT・名古屋女子大学高校
BD・川崎・竹本（時習館）
林・藤原（名古屋電気）
GD・奥村・奥田（愛知淑徳）
近藤・又坂（春日井）
BS・林（名古屋電気）
藤原（名古屋電気）
GS・奥村（愛知淑徳）
今井（名古屋女子大高）

▼岐阜県

BT・岐阜工業
GT・岐阜女子商業

▼京都府

BT・東山
GT・成安女子
BD・竹井・小坂（京都商業）
菊地・羽田（同志社）
GD・青山・福田（成安女子）
武田・武部（乙訓）
BS・三橋（朱雀）
小坂（京都商業）
GS・青山（成安女子）
折坂（ノートルダム）

▼大阪府

BT・交野
GT・四条畷学園
BD・向井・奥野（交野）
林・山埜（交野）
GD・相川・北田（四条畷学園）
松田・大関（四条畷学園）
BS・滝川（大和川）
阿部（茨木）
GS・北田（四条畷学園）
原田（四条畷学園）

▼奈良県

BT・正強
GT・奈良一条
BD・吉村・虎枝（奈良一条）
貴田・藤本（正強）
GD・横田・佐藤（奈良一条）
大野・平林（帝塚山）
BS・吉村（奈良一条）
虎枝（奈良一条）
GS・横田（奈良一条）
奥谷（奈良一条）

▼和歌山県

BT・御坊商工
GT・新宮商業
BD・南・岩出（新宮）
西山・西秋（新宮）
GD・崎野・松本（御坊商工）
山崎・森口（御坊商工）
BS・楠本（御坊商工）
南（新宮商業）
GS・橋本（新宮）
崎野（御坊商工）

▼岡山県

BT・倉敷工業
GT・山陽女子
BD・亀山・若林（倉敷工業）
渡辺・野瀬（倉敷天城）
BS・亀山（倉敷工業）
難波（水島工業）

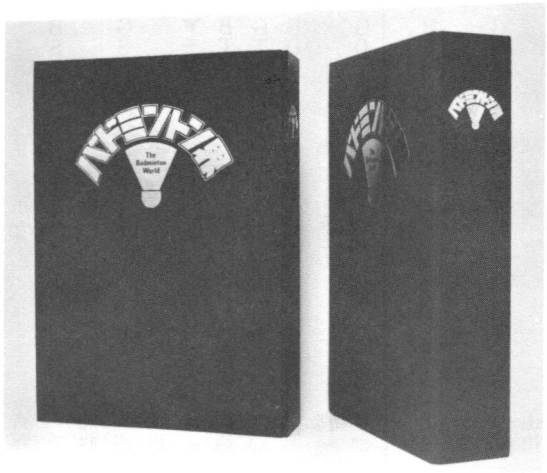
▼熊本県

BT・九州学院
GT・熊本中央女子高校

＝追加＝

▼岐阜県

BD・戸崎・和泉（岐阜工業）
堀・加藤（長良高）
GD・広沢・石田（岐阜女子商業）
根村・野田（岐阜女子商業）
BS・戸崎（岐阜工業）
和泉（岐阜工業）
GS・広沢（岐阜女子商業）
石田（岐阜女子商業）



バドミントン界専用

合本バインダー

定価・500円

穴あけ不要・かんたんに・美しく保存

「バドミントン界」は読捨ての雑誌ではありません。毎月きちんと揃えて保存すれば、バドミントンの百科事典となるものです。

そのために本誌1年分12冊を、穴をあけたり、ノリを使ったりすることなく、簡単に保存しておくことのできる専用合本バインダーができました。

今回製作したものは、表紙の新しいデザインにあわせた写真のようなシャレたものです。

表紙は濃いブルーの特殊レザーを使用し、本誌と同じデザインを銀パクで押したものです。丈夫で長い間の保存に耐えることができます。

専用合本バインダーは1冊定価500円ですので、ご希望の方は下記の送料を加えて、本誌巻末に綴じ込みの振替用紙に必要事項を明記のうえ、お近くの郵便局からお申し込みください。

（送料1冊＝300円、3冊まで600円、4冊以上700円）

バドミントン界編集部

年間購読のおすすめ

バドミントン専門月刊誌「**バドミントン界**」は、一般の書店では販売しておりません。

購読ご希望の方は、編集部あて年間予約購読をお申し込みください。バドミントン界は一部定価300円ですが、年間予約購読をお申し込みになりますと、一年間3600円のところを3000円に割引となります。さらに日本バドミントン協会登録会員の方は、2800円となります。

お申し込み方法は簡単です。本誌巻末とじ込みの振替用紙に必要事項明記のうえ、代金をそえてお近くの郵便局からお申し込みください。毎月15日に発行と同時にお送りいたします。

購読期間は1年ごとの更新となりますので、6ヵ月や2年間といった変則的なお申し込みはご遠慮ねがいます。

また、ヨネックススポーツ、河崎ラケットの特約スポーツ店、ラケットショップ元町、ラケットショップフジ、ジャワ商会、サンスポーツ、アサヒスポーツ各店でも予約をお取り扱いしておりますので、各店にご照会ください。

WORLDWIDE TOPICS

海外トピックス
友枝康子

日本女子はユーバー杯の奪還にも成功し、その健在ぶりを示したが、さきの全英選手権大会で活躍した日本女子について、現地ではどう見ているか、「バドミントン・ギャゼット」5月号から紹介してみよう。

◆爆発したTNT

ギルクスはミックス・スタイルで応戦

1回戦は、まず順当。敗者は敵をもっとよく知ること。

2回戦。トップ8組の優勢は歴然。3ゲームに持ち込んだのはわずかに一試合。ペリー、スタット組がインドネシアのヴェラワティ、イメルダ組を15—9、12—15、15—11で、サットン、ウェブスター組が、シードの湯木、近藤組を15—10、15—13で破る。このシードは客への礼儀からではと思わせる。何しろ、去年2度顔の合ったこの組み合わせでは、いずれもイギリスが勝ったのだから。

オランダのビューセコム、リダー組は、カナダのバックハウス、ヤングバーグ組に敗退。19歳のバックハウスは、初出場ながら、大働き。強烈なスマッシュ、スピード、巧みなショットで、パートナーの攻撃とネットぎわでのプッシュを助ける左利きのプレーヤーだ。

3回戦。植野、米倉組、デンマークのボルグストロム、ニールセン組を破る。梅野尾のおめでたで、新しく組んだコンビは、いずれも若く、力強く、しかも楽しい。デンマーク組は、見るごとに技術の進歩が見られるものの、去年のマルメでの生気が欠けているようだ。

徳田、高田組（T・N・T）対ギルクス、フェリントン組。アン・スタットと組んだ去年の大会では、ギルクスがこのペアを破っているが、今回の二人は進歩いちじるしいT・N・Tだ。

日本勢に1—7と追い込まれると、ギリアンは混合ダブルスのフォーメーションで、フェリントンの後に回って、思いどおりの返球を得るよう、後衛からのいろいろな技を駆使してゲームを支配する形をとった。フェリントンは、ロー・サービスにもっと気を配るべきだし、クロス・コート・ショットもすきだらけだ。

長いラリーにもミスをしない日本ペア

準決勝。T・N・T対テレシア、レジナ組。インドネシア勢にとっては、スピードが問題らしい。両ペアともすばらしい防御を見せた。34—36ショットのラリーが続く！　まるでエクジビション試合で、ミスが失点になる。小柄な高田は、三人に押されてミスが目立つ。15—14、15—14でT・N・Tに軍配があがったが、このスコアはどちらも優劣がつけがたい。

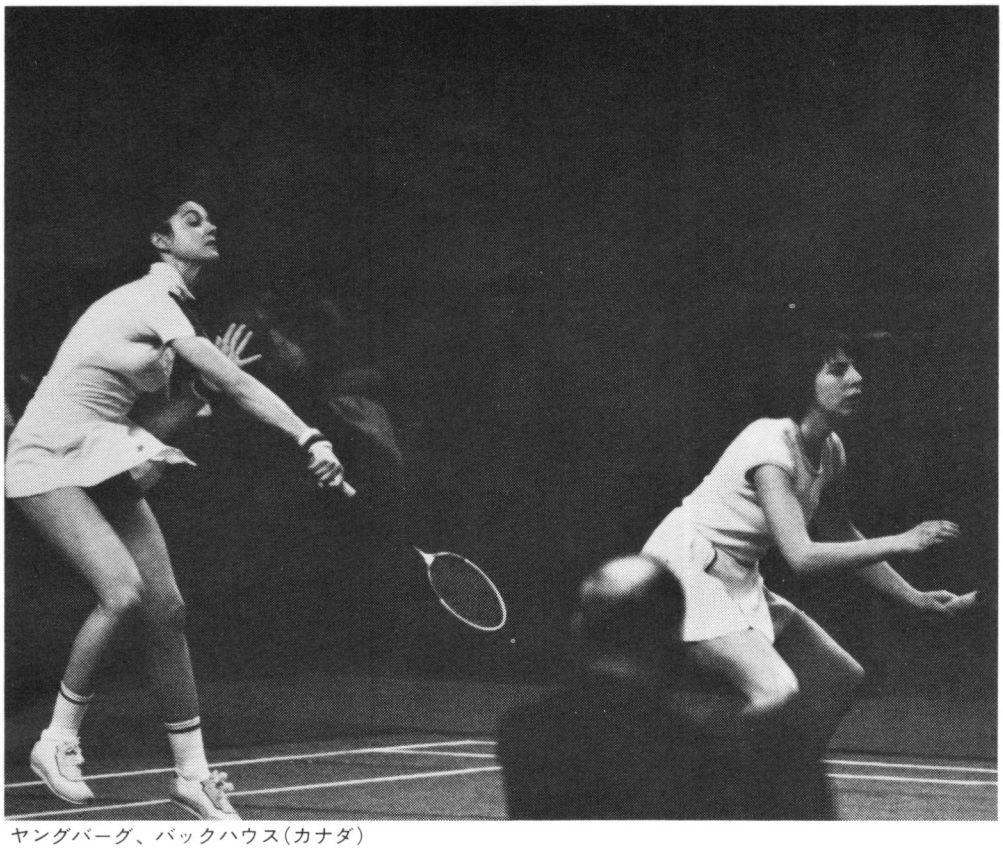
植野、米倉組対バックハウス、ヤングバーグ組。他のコートで男子の大試合があったが、こちらも観衆を引きつける。カナダ、積極的プレーで第1ゲームを15—11でとる。ロー・サービスがうまく入るが、返球が身体を狙って打ち込まれ、ラリーが長びくにつれて、日本のコーナーワークが目立ちはじめ、ミスが少なくなり、日本が15—10で、第2ゲームをとる。疲れが見え、コートがすべりやすくなった。威勢のいい日本勢にとっても、15—3のスコアの見かけほどは、楽な勝利ではないようだった。

決勝は日本勢同士。力強く、少年のような、ショート・パンツ姿のレディ達。小柄でおかっぱ頭の高田、キャプテン格の徳田、対するのは、まるまると可愛らしい植野と初出場ながら積極的な米倉。この試合から何を学ぶか。——サーブがゆっくり入り、自分のミスがはっきりするまでは返球しない。十分になるまではシャトルを遊ばせておき、エラーに追い込まれない——。

第1ゲーム、37ショットのラリーの後、サイドラインをはずれたエラーで決まる。18—16でT・N・T。ガットが切れる。緊張状態、そして、米倉にクロス・コート・ショットのすきがあって、15—6。NO・1シード組にとって、楽な勝利だった。

コートの外から、とやかく言うのはたやすい。しかし、防御を攻撃に切りかえること、一度手にした攻撃を守りつづけることはむずかしい。そうした才能の持主は過去にも少ないが、今年は、日本とカナダのペアが見せてくれた。

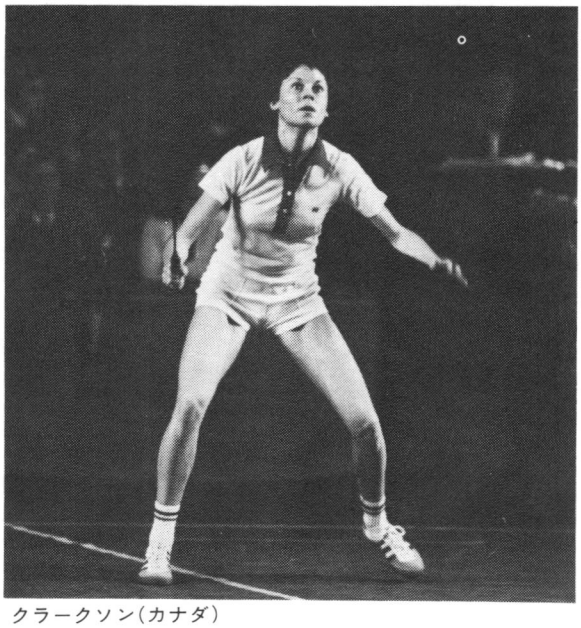
（イングランド協会コーチ、シェイラ・タイレル）



ヤングバーグ、バックハウス(カナダ)



ベラワティ・イメルダ(インドネシア)向う側



クラークソン(カナダ)

◆ギリアンに栄冠

女子シングルスは、いつもながら興味がつきない。まず特筆すべきは、世界チャンピオンのリョン・コーペンの準々決勝での敗退、そのために、準決勝の一つが「非公式」の決勝戦となったことだ。



ギルクス夫人（イギリス）

〝非公式〟の決勝戦？

それは、ギリアン・ギルクスと、完調ではないと伝えられた湯木の間で行われた。しかし、ほかの試合結果はどうあれ、ウエンブレーではいつも出来のいい湯木は、今回もその通りの試合ぶりだった。ギリアンが力を発揮したのは終盤で、この金曜日、ギリアンはショットを見送ってばかり。「打って、お願い」と叫びたくなる。3ゲームは、湯木にエラーが多く、ギリアンはありがたくいただいて、12—11、5—11、11—3で勝った。

さて、もう一方の準決勝は、ハルトノ対スター・ジョンソン、パーサー対プリの試合のおかげで影が薄くなったが、カナダのウェンディ・クラークソンが、世界チャンピオン、リーン・コーペンを降している。リーンは、湯木とは対照的で、ウェンブレーではツキのない不運のプレーヤーらしい。

ウェンブレーの〝いたずら小鬼〟

リーンがウェンブレーにはじめて出場したのは、一九七〇年で、2回戦でマーガレット・アレン（旧姓ボクソール）に敗れている。その後も、一九七一年には、エバ・ツェドベリに1回戦で、一九七二年には準決勝で中山夫人に、一九七三年、準決勝でマーガレット・ロックウッドに、一九七四年、七五年、七六年と三年連続して、準決勝でギリアン・ギルクスに敗れ、昨年は決勝で湯木に敗退した。リーンにかぎって、ウェンブレーには、意地悪な小鬼がついて回っているらしい。今年も例外ではなかった。

近藤は〝ガット張り替え屋〟？

めざましい選手が一人登場。次期を日本で期待されている若い学生プレーヤー近藤小織は、決勝で敗れた。

その午後、彼女は、女子ダブルスに出場する僚友たちのラケットをつくろっていた。

彼女がイギリスの観衆の注目をはじめて浴びたのは、イギリスの最年少カレン・ブリッジと対戦、カレンが第1ゲームを11—8でとって場内を湧かせてから後、まき返して後のゲームを11—5、11—4で、勝ってからだ。しかし、この試合、近藤の技が格段上だったからではなく、むしろ、カレンが精魂つき果てたという感があった。

近藤のこのスコアは、その後のビューセコム、クラークソン戦のスコアとも非常に似ている。

クラークソンは、トップ・シードのコーペンを破ったかいなく決勝進出を果たせず、近藤にゆずった。ギリアンは、リーン・コーペンではなく、近藤とネット越しにまみえたことを喜んだかも知れない。

ラケットの〝大安売り〟

決勝でギリアンは、第1ゲームを難なく11—1で押し切った。このゲームでの見所はプレーではなく、とりかえたラケットとシャトルの数だった。ギリアンは恐らく七本のラケットをかえただろう。

しかし、次のゲームは近藤も落ち着いて、せり合いとなり、ギリアンは、巧みなドロップ・ショットのおかげで、危ないところを11—9の僅差で逃げ切った。近藤はスタートが悪く、だんだんと調子のでてくるプレーヤーらしい。ギリアンがこのゲームでけりをつけられたのはよかったといえる。3ゲームに入れば、近藤が調子を上げるのが予想されたのだから。

（サレイ・バドミントン協会のドロシー・ヒンチクリフの観戦記から）

FROM EUROPE

ヨーロッパ情報

ハッシュマン夫人解任！

イングランド協会で、ユーバー杯の監督として女子チームをリードしてきたジュディ・ハッシュマン夫人は、任期切れを理由に突然解任された。

この件は、イングランド関係者だけでなく、ハッシュマン夫人の活動ぶりを知っている人は一様に驚いている。

「バドミントン・ギャゼット」5月号に、〝スープリモ・ショック〟と題して、記事をのせているので、紹介したい。

「スープリモ」ショック！

ジュディ・ハッシュマン夫人の「スープリモ」（コーチ兼チーム・マネジャー兼プレーしない主将）の職は任期切れである、というイングランド・バドミントン協会の素っ気ない声明は、突然のショックだった。

彼女の言うには、これには何の予告もなく、また理由も示されないということで、彼女がその仕事の総仕上げと考えていた英連邦大会を前に一方的に告げられたというのである。

その年の契約の更新は行わないとする権利が協会にあることは否定しない。しかし、その高飛車なやり方が問題だ。夫人もその他の協会傘下のプレーヤーも、つんぼ桟敷におかれたままではいけないだろう。

ユーバー杯の失敗の責任を問われるのか？　重鎮の二人、ギリアン・ギルクス、マーガレット・ロックウッドを欠いていたのである。彼女を責めるわけにはいかない。それに、ヨーロッパ選手権チームは、りっぱにその責を果たしている……。

何も触れられていなかったが、夫人のこの仕事の役割は、そもそもユーバー杯を目標としていたのか？　その任期中には、ヨーロッパ選手権も英連邦大会もはいっているのだから、そうとは考えられない。

女性では、次回のトマス杯に向けての男子のコーチはできないという決定でもあったのか？　国際経験が豊かで、バドミントン界中枢人物、17回も全英選手権をとった彼女でも？　ともかく、ユーバー杯のコーチは従来、男性だったというのに。

人間関係のあつれきか？　ジュディは、率直に物を言い、意見のはっきりした人物であり、彼女の選んだ助手のモーリス・ロビンスンも、協会に対しては、一種の反逆児だった。

あのように歓迎された「スープリモ」という発想は、もう挫折してしまったのか？　こんな状態で、旧弊な選定委員会組織に、彼女が加わるとイングランド協会は本気で思っているのか？　彼女がユーバー杯チームと苦労を共にした準備作業は水泡に帰すのだろうか？　あるいは、一九八〇―八一年に向けて、新たにコーチを任命するのか？　これからの委員会が、シーズンも残り少なくなったこの時期に何ができるのか？　時宜を得た処置とは、とうてい思えない！

この方向転換には、協会なりの理由があるのだろう。内輪の恥をさらしたくない、関係者の感情を害したくないのかも知れない。しかし、理由はどうあれ、誰もが口にしたい質問のいくつかに、協会が答えてくれることを望みたい。秘密主義が、その立場をよくするとは思えない。

イングランド・ランキング発表

イギリスの新しいシングルスのランキングが5月に発表された。

これによると、デリク・タルボットとギリアン・ギルクスが前年に続いて男女のシングルスのトップにランクされている。

前回ギルクス夫人とともにトップであったマーガレット・ロックウッドは、ひざの故障が回復せず、ランクからはずれている。

また、もっぱらダブルス・プレーヤーとして活躍したノラ・ペリーが、今回は3位に顔を出している。

新しいランキングは次のとおり。（）内は前年のランク。

▼男子

①デリク・タルボット(1)
②レイ・スティーブンス(2)
③ケビン・ジョリー(5)
④マイク・トレジェット(3)
⑤デビッド・ハント(6)
⑥M・J・ウイルクス(7)
〃デビッド・エディ(3)
⑧B・A・ウォールワーク(―)
⑨M・A・ネブザット(―)
⑩A・グード(―)

▼女子

①ギリアン・ギルクス(1)
②ジェーン・ウェブスター(3)
③ノラ・ペリー(―)
④ポーラ・キルビントン(4)
〃カレン・ブリッジ(5)
⑥K・ホワイティング(―)
⑦スー・ウィットテイカー(9)
⑧アン・スタット(6)
⑨H・ウィックソン(7)
⑩P・デービス(―)

☆読者と☆編集者

地方の記録も知らせて

毎月のバドミントン界を読んで、次の点を要望します。

(1) いつも記事が全国クラスの大会結果ばかりで、地区大会や市民レベルの大会の報道がない。もちろん大きな大会は知りたいが、小さな試合の動向もぜひ知りたい。

何といってもチャンピオンは一人、愛好者は何万人もいるわけだから。

(2) 技術指導の連載がほしい。ラケットの持ち方、振り方というものでなく、練習の具体的な進め方、戦略・戦術について。

(3) 第一線選手のラケットについて詳しいデータを知りたい。

この件は、以前にも同じ趣旨の投稿があったと思う。

以上、よろしく。

（大田区・Y・U生）

◆(1)はご指摘のとおりで、編集部も頭を痛めています。何しろ結果を入手するのが非常に困難なのです。全国に記者を派遣するわけにもいかず、各都道府県協会からの連絡を待っているのが現状です。しかし、ある通信社と提携して各地の新聞報道を集める手段を検討中ですので、もうしばらく時間をください。

(2)、(3)は必ず実現させます。とくに(3)は二、三ヵ月のうちに記事としてまとめます。

配本が遅い

年間購読を始めて3ヵ月です。毎月15日の発行ということですが、手に届くのはいつも20日過ぎです。期日どおり届くようにお願いします。

（小田原市・若山三代子）

◆本誌は毎月14～15日に一括して郵便局から〝別納郵便〟で発送しています。そのため検数や区分けなどに、他の郵便物よりやや時間がかかることがあります。しかし、15日にはお手もとに届くように8月号からペースを一週間ほど早めますので、ご了承ください。

コラムが楽しい

〝最近のバド界が変わった!!〟これが僕の感想です。それは二つのコラム、「ノンフィクション・アラカルト」と「演劇随想」が加わったこと。二つともバドミントンとは全然関係ないのですが、中学生の僕にとっては欠かせないページです。作文はあまり得意ではありませんが、将来はノンフィクションでも書いてやろう……などと考えている毎日です。

（中央区・遠藤義国）

◆高田正純さんも、寺田太郎さんもすぐれたエッセイストとして有名です。縁があって本誌にも書いていただけることになりましたが、毎月楽しみにしている人は多いと思います。これからも楽しい読物をお届けできるでしょう。

協会からのお知らせ

N. B. A.

年度替りに伴い、各協会で担当、住所等の変更がありました。左記にまとめてお知らせします。

▽山口県協会
事務局新住所＝〒750下関市新地町6―6津守幸介気付

▽福島県協会
新広報担当役員＝鈴木憲司

▽島根県協会
新理事長＝高麗久義
新代議員＝松尾益吉

▽宮城県協会
新会長＝森康
事務局新住所＝〒980仙台市土樋1丁目3―1東北学院大学学生課内☎0222―64―643

▽青森県協会
事務局新住所＝〒036―03青森県黒石市北美町1丁目29―21遠藤靖史気付☎017225―2―7194

▽沖縄県協会
事務局新住所＝〒901―21沖縄県浦添市字宮城354―1井上起気付

▽群馬県協会
仮事務局＝〒376桐生市美原町1―39桐生高校内関俊夫気付☎0277―45―2756

▽全日本学生連盟
新代議員＝高橋清治

▽香川県協会
事務局新住所＝〒761香川県高松市一宮町1682―4東条義昭気付

▽岡山県協会
新会長＝石田祥史
新理事長＝岡本武利
事務局新住所＝〒700岡山市大供1―1―1岡山市役所収税課内岡本武利気付☎0862―25―4211（内線）353

「競技規則書」ご希望の方に

バドミントンの競技規則書は日本バドミントン協会事務局あてお申し込みください（住所は編集部と同じ）。内容は競技規則のほかに、大会運営規定、公認審判員資格審査規定、審判員心得、審判用語、公認指導員資格審査規定が収録されていて、一部定価300円送料60円です。必ず現金書留でお申し込みください。

1978年度・大会日程カレンダー

▽国内大会

第28回全日本実業団バドミントン選手権大会（6月13日～18日・東京）

第29回全国高等学校バドミントン選手権大会（8月3日～8日・会津若松市）

第17回全日本教職員バドミントン選手権大会（8月10日～14日・仙台市）

第8回全国中学生バドミントン選手権大会（8月18日～20日・名古屋市）

第21回全日本社会人バドミントン選手権大会（8月26日～29日・大津市）

全日本バドミントンオールスターダブルス'78（9月10日・東京）

第33回国民体育大会バドミントン競技（10月16日～19日・塩尻市）

第29回全日本学生バドミントン選手権大会（10月16日～22日・名古屋市）

昭和53年度全日本総合バドミントン選手権大会・個人戦（11月14日～19日・東京）

昭和53年度全日本総合バドミントン選手権大会・団体戦（昭和54年2月17日～18日・東京）

第7回全国高等学校選抜バドミントン競技会（昭和54年3月）

▽国際大会（国内）

日韓高校バドミントン交歓競技大会（8月20日～25日・関東京浜地区）

第8回国際バドミントン競技大会（昭和54年1月中旬～下旬）

▽国際大会（国外）

第8回女子バドミントン世界選手権（ユーバー杯）大会アジア地区決勝戦（4月8日・クアラルンプール）

第3回アジア招待バドミントン競技大会（4月15日～25日・北京）

第8回世界女子バドミントン選手権（ユーバー杯）大会（5月13日～20日・ニュージーランド・オークランド）

第8回アジア競技大会（12月9日～20日・バンコク）

第27回デンマークオープンバドミントン選手権大会（昭和54年3月7日～10日・コペンハーゲン）

第69回全英バドミントン選手権大会（昭和54年3月21日～24日・ウェンブレー）

編集室から

◆今月号は、実業団選手権を中心にお届けいたします。例年にない猛暑に見舞われ、各選手ともコンディションの維持には苦労していたようですが、それにしても個人戦の銭谷選手、団体戦の土田選手の敗戦はどうしたのでしょうか。トマス杯予選を前にして、効き目あらたかな良薬となってくれればよいのですが……。

◆この大会中、金沢市では36度という気温を記録したように、メイン会場となった駒沢体育館も蒸し風呂のような暑さ。売店のおばさんの話によると「1日に500本以上、清涼飲料水が売れる」とのこと。数ある競技の中でも「バドミントンとハンドボールが特によく飲む」とのことでした。

◆作文「私とバドミントン」の応募ありがとうございました。巻頭に発表いたしました秀作の方には、早速記念品をお送りいたします。

◆いよいよ小島一平著「ガッツ!!バドミントン」が7月15日に発売されました。豊富な海外遠征をもとに、一平さんのすべてが手にとるように、150枚の写真とともに迫ってきます。日本が生んだ不出世の名プレーヤーから、あなたも〝何か〟を盗んでみませんか。申し込みはお早目に、本誌編集部宛ハガキでお申し込みください。7月25日（消印有効）まで予約特価となります。

◆来月号は、関東・関西学生選手権の模様を中心にお届けいたします。お楽しみに!!

バドミントン界　通巻第105号　1978年7月号　定価 300円

©1978　無断転載を禁ず

昭和53年7月15日発行
編集人／赤星　三樹
発行人／秦　浩

発行所・日本バドミントン協会
郵便番号 150 東京都渋谷区神南1－1－1　岸記念体育会館
電話　03－467－3111(代表) 内線351
振替　東京5－9525(バドミントン界編集部)

小島一平著

ガッツ・バドミントン

——限りなき挑戦

●豪華大型本：菊倍判変形
(39.5cm×32.3cm)
●総アート紙164ページ
うちカラー14ページ
●収録写真約150点
連続写真11フォーム

いよいよ刊行!!

●本書について

小島一平氏は、全日本総合選手権（オールジャパン）男子シングルスに5連勝を含む8回の優勝、同じくダブルスに4回の優勝をとげ、個人の事実上の世界選手権ともいうべき全英選手権で、単複ともに3位、デンマーク・オープンでは単複優勝という輝かしい実績を持っています。

その160センチという小柄な体に、ファイトをみなぎらせ、あらゆるシャトルに飛びつく姿は〝ガッツ〟の異名をとった。IBF（国際バドミントン連盟）のH・A・シェーラ氏は〝まるでゴムマリのようだ〟と、そのプレーを評している。

本書は小島一平氏が、どのようにバドミントンと取り組んできたかという半生記と、技術の向上に必要なことは何かを示す実戦アドバイス、そしてライバルを語る〝わがライバルたち〟から構成されており、さらに巻末には、資料として主要大会の詳細な記録と、競技規則、審判用語を加え、非常に内容の濃いものとなっています。

判型も菊倍判変形(39.5cm×32.3cm)と週刊誌よりふた回り大きくし、全ページアート紙使用の、見る楽しさも十分にそなえたものです。本文中には、銭谷、土田、中井、長谷川の各選手をはじめわが国を代表する多くの選手、海外からもルディ・ハルトノ、スヴェン・プリ、トーマス・キールストロムといった国際舞台で活躍をしている選手をはじめ、約150点の写真を収録しています。

さらにカラー口絵14ページには、今年度の全英選手権、デンマーク・オープンの写真を中心に美しいカラーページを構成しています。

●お申込み方法は

本書は1部定価2000円ですが、昭和53年7月25日（消印有効）までにお申込みの方には、特価1800円とし、送料も当編集部でご負担いたします。ご希望の方はハガキに部数を明記のうえ、本誌編集部宛お申し込みください。

●宛先

〒150 東京都渋谷区神南1—1—1
岸記念体育館内
バドミントン界編集部

月刊「バドミントン界」7月号
昭和44年12月23日第3種郵便物認可　昭和53年7月15日発行（毎月1回15日発行通巻第105号）
発行所・東京都渋谷区神南1丁目1番地1号岸記念体育館内　日本バドミントン協会　定価300円



B-9300 Carbonex3
●スリー……¥7,500（フレーム・ケース付）



B-8300 Carbonex7
●セブン……¥7,700（フレーム・ケース付）

パワー時代のラケット。先進のカーボン。

フレームにウッドと特殊アルミ合金の違いはあっても、この2本どちらも今世界のコートで大活躍中。ヨネックス独自のカーボンラケットです。カーボンシャフトのすさまじい弾性が強力なスマッシュを生み出します。そのうえスウィートスポットがぐんと広がり、シャトルをとらえる性能も確実。世界の一流プレイヤー達がパワーバドミントンを目ざしている現在、これこそまさにうってつけのもの。カーボンならヨネックスです。

●日本初のこと－このラケットにはRとXの表示があります。Rはレギュラーでスナップ打法用。Xはエキスパートでフルスイング打法用です。

YONEX®